

令和3年第4回嬉野市議会定例会会議録

招 集 年 月 日	令和3年12月1日					
招 集 場 所	嬉野市議会議場					
開 閉 会 日 時 及 び 宣 告	開議	令和3年12月13日 午前9時30分			議 長 田 中 政 司	
	散会	令和3年12月13日 午後2時27分			議 長 田 中 政 司	
応（不応）招 議員及び出席 並びに欠席議員	議席 番号	氏 名	出欠	議席 番号	氏 名	出欠
	1番	山 口 卓 也	出	9番	森 田 明 彦	出
	2番	諸 上 栄 大	出	10番	辻 浩 一	出
	3番	諸 井 義 人	出	11番	山 口 忠 孝	出
	4番	山 口 虎 太 郎	出	12番	山 下 芳 郎	出
	5番	宮 崎 一 徳	欠	13番	山 口 政 人	出
	6番	宮 崎 良 平	出	14番	芦 塚 典 子	出
	7番	川 内 聖 二	出	15番	梶 原 睦 也	出
	8番	増 田 朝 子	出	16番	田 中 政 司	出

地方自治法 第121条の規定 により説明の ため議会に出席 した者の職氏名	市長	村上大祐	健康づくり課長	
	副市長	池田英信	統括保健師	
	教育長	杉崎士郎	子育て未来課長	
	行政経営部長	永江松吾	福祉課長	三根伸二
	総合戦略推進部長	三根竹久	農業政策課長兼 農業委員会事務局長	井上章
	市民福祉部長	筒井八重美	茶業振興課長	森尚広
	産業振興部長	中村はるみ	観光商工課長	福田正文
	建設部長	井上元昭	農林整備課長	馬場敏和
	教育部長	大久保敏郎	建設課長	馬場孝宏
	観光戦略統括監	近藤光則	新幹線・まちづくり課長	松尾憲造
	総務・防災課長兼 選挙管理委員会事務局長	太田長寿	環境下水道課長	植松英樹
	財政課長	山口貴行	教育総務課長	武藤清子
	税務課長		学校教育課長	中野宗利
	企画政策課長		会計管理者兼 会計課長	
	広報・広聴課長		監査委員事務局長	
	文化・スポーツ振興課長		代表監査委員	
	市民課長			
本会議に職務 のため出席した 者の職氏名	議会事務局長	白石伸之		

令和 3 年第 4 回嬉野市議会定例会議事日程

令和 3 年 12 月 13 日（月）

本会議 第 3 日目

午前 9 時 30 分 開 議

日程第 1 討論・採決

- 議案第 94 号 令和 3 年度嬉野市一般会計補正予算（第 10 号）
- 議案第 95 号 令和 3 年度嬉野市国民健康保険特別会計補正予算（第 2 号）
- 議案第 96 号 令和 3 年度嬉野市後期高齢者医療特別会計補正予算（第 2 号）
- 議案第 97 号 令和 3 年度嬉野市農業集落排水特別会計補正予算（第 2 号）
- 議案第 98 号 令和 3 年度嬉野都市計画下水道事業嬉野市公共下水道事業費特別会計補正予算（第 1 号）
- 議案第 99 号 令和 3 年度嬉野市浄化槽特別会計補正予算（第 1 号）
- 議案第 100 号 令和 3 年度嬉野市嬉野都市計画事業嬉野第七土地地区画整理事業費特別会計補正予算（第 1 号）
- 議案第 101 号 令和 3 年度嬉野市嬉野都市計画事業嬉野第八土地地区画整理事業費特別会計補正予算（第 1 号）
- 議案第 102 号 令和 3 年度嬉野市嬉野都市計画事業嬉野温泉駅周辺土地地区画整理事業費特別会計補正予算（第 2 号）
- 議案第 103 号 令和 3 年度嬉野市一般会計補正予算（第 11 号）

日程第 2 一般質問

順次	通 告 者	質 問 の 事 項
1	森 田 明 彦	1. コロナ後を見据えた観光政策について 2. 災害対策（地震）について 3. 今後の林業政策について
2	諸 井 義 人	1. 農福連携について 2. 教育環境及び ICT 教育について
3	芦 塚 典 子	1. 教育政策について 2. 農業政策について 3. 道路整備について 4. 災害復旧について

午前 9 時 30 分 開議

○議長（田中政司君）

皆さんおはようございます。

本日は議席番号5番宮崎一徳議員が欠席であります。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程につきましては、お手元に配付のとおりであります。

議事に入ります前に、執行部のほうより議案の訂正の申出がっておりますので、これを許可いたします。行政経営部長。

○行政経営部長（永江松吾君）

おはようございます。

今定例会に上程させていただいております議案第92号 指定管理者の指定について、その中の一部において表記の誤りがございました。お手元に配付しております正誤表のとおり訂正をさせていただきたいと思っております。御迷惑をおかけして申し訳ございませんでした。

○議長（田中政司君）

それでは、今の訂正について何か質疑ありますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

質疑なしということで承認をしたいと思います。

それでは、日程第1. 討論・採決を行います。

議案第94号 令和3年度嬉野市一般会計補正予算（第10号）について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認めます。これで議案第94号の討論を終わります。

議案第94号について採決をします。

議案第94号を原案のとおり決定することについて賛否の投票を求めます。それでは、投票してください。

〔押しボタン式投票〕

投票を締め切ります。全員賛成であります。したがって、議案第94号 令和3年度嬉野市一般会計補正予算（第10号）については可決しました。

次に、議案第95号 令和3年度嬉野市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認めます。これで議案第95号の討論を終わります。

議案第95号について採決をします。

議案第95号を原案のとおり決定することについて賛否の投票を求めます。それでは、投票してください。

〔押しボタン式投票〕

投票を締め切ります。全員賛成であります。したがって、議案第95号 令和3年度嬉野市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）については可決しました。

次に、議案第96号 令和3年度嬉野市後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認めます。これで議案第96号の討論を終わります。

議案第96号について採決します。

議案第96号を原案のとおり決定することについて賛否の投票を求めます。それでは、投票してください。

〔押しボタン式投票〕

投票を締め切ります。全員賛成であります。したがって、議案第96号 令和3年度嬉野市後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）については可決しました。

次に、議案第97号 令和3年度嬉野市農業集落排水特別会計補正予算（第2号）について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認めます。これで議案第97号の討論を終わります。

議案第97号について採決をします。

議案第97号を原案のとおり決定することについて賛否の投票を求めます。それでは、投票してください。

〔押しボタン式投票〕

投票を締め切ります。全員賛成であります。したがって、議案第97号 令和3年度嬉野市農業集落排水特別会計補正予算（第2号）については可決しました。

次に、議案第98号 令和3年度嬉野都市計画下水道事業嬉野市公共下水道事業費特別会計補正予算（第1号）について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認めます。これで議案第98号の討論を終わります。

議案第98号について採決します。

議案第98号を原案のとおり決定することについて賛否の投票を求めます。それでは、投票してください。

〔押しボタン式投票〕

投票を締め切ります。全員賛成であります。したがって、議案第98号 令和3年度嬉野都市計画下水道事業嬉野市公共下水道事業費特別会計補正予算（第1号）については可決しました。

次に、議案第99号 令和3年度嬉野市浄化槽特別会計補正予算（第1号）について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認めます。これで議案第99号の討論を終わります。

議案第99号について採決します。

議案第99号を原案のとおり決定することについて賛否の投票を求めます。それでは、投票してください。

〔押しボタン式投票〕

投票を締め切ります。全員賛成であります。したがって、議案第99号 令和3年度嬉野市浄化槽特別会計補正予算（第1号）については可決しました。

次に、議案第100号 令和3年度嬉野市嬉野都市計画事業嬉野第七土地区画整理事業費特別会計補正予算（第1号）について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認めます。これで議案第100号の討論を終わります。

議案第100号について採決します。

議案第100号を原案のとおり決定することについて賛否の投票を求めます。それでは、投票してください。

〔押しボタン式投票〕

投票を締め切ります。全員賛成であります。したがって、議案第100号 令和3年度嬉野市嬉野都市計画事業嬉野第七土地区画整理事業費特別会計補正予算（第1号）については可決しました。

次に、議案第101号 令和3年度嬉野市嬉野都市計画事業嬉野第八土地区画整理事業費特別会計補正予算（第1号）について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認めます。これで議案第101号の討論を終わります。

議案第101号について採決します。

議案第101号を原案のとおり決定することについて賛否の投票を求めます。それでは、投票してください。

〔押しボタン式投票〕

投票を締め切ります。全員賛成であります。したがって、議案第101号 令和3年度嬉野市嬉野都市計画事業嬉野第八土地区画整理事業費特別会計補正予算（第1号）については可決しました。

次に、議案第102号 令和3年度嬉野市嬉野都市計画事業嬉野温泉駅周辺土地区画整理事業費特別会計補正予算（第2号）について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認めます。これで議案第102号の討論を終わります。

議案第102号について採決します。

議案第102号を原案のとおり決定することについて賛否の投票を求めます。それでは、投票してください。

〔押しボタン式投票〕

投票を締め切ります。全員賛成であります。したがって、議案第102号 令和3年度嬉野市嬉野都市計画事業嬉野温泉駅周辺土地区画整理事業費特別会計補正予算（第2号）については可決しました。

次に、議案第103号 令和3年度嬉野市一般会計補正予算（第11号）について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認めます。これで議案第103号の討論を終わります。

議案第103号について採決します。

議案第103号を原案のとおり決定することについて賛否の投票を求めます。それでは、投票してください。

〔押しボタン式投票〕

投票を締め切ります。全員賛成であります。したがって、議案第103号 令和3年度嬉野市一般会計補正予算（第11号）については可決しました。

ここで9時50分まで休憩いたします。

午前9時40分 休憩

午前9時50分 再開

○議長（田中政司君）

再開します。

日程第2. 一般質問を行います。

通告順に発言を許可いたします。

議席番号9番、森田明彦議員の発言を許可いたします。森田明彦議員。

○9番（森田明彦君）

皆さんこんにちは。議席番号9番、森田明彦です。傍聴席の皆様には早朝より傍聴いただきありがとうございます。

さて、今年は新型コロナワクチンの接種をはじめ、関連する国の事業の執行、そしてまれに見るといえるか、頻発する、今年は特に、8月の集中豪雨の対応など、その時々の方々の様々な対応に感謝をいたします。

さて、いよいよ今任期中最後の一般質問となりました。嬉野市の今後の隆盛を願う気持ち

で行いたいと思います。

それでは、議長の許可を得ましたので、通告書に沿い、今議会3項目の質問をいたします。壇上からは初めに、コロナ後を見据えた観光政策について。

最初に、予断は許さないが、日常の回復の兆しも見え始める中、ウイズコロナも考慮した今後の観光戦略をお伺いいたします。

再質問を含め、以下については質問席より質問をいたします。

○議長（田中政司君）

ただいまの質問に対して答弁を求めます。市長。

○市長（村上大祐君）

それでは、森田明彦議員の質問にお答えをしたいと思います。

まず初めに、コロナ後を見据えた観光政策についてのお尋ねでございます。

議員御指摘のとおり、緊急事態宣言等は全て解除され、嬉野市におきましても観光客が戻りつつある回復基調にあるわけでありませけれども、また、オミクロン株、新たな新型コロナウイルスの変異株がこういった国内でも少しずつ確認をされているというような状況でありますので、これも議員御指摘のとおり、予断を許さない状況でございます。

しかしながら、嬉野市におきましては人口当たりの感染者数というのは県内の中でも下から数えたほうが早いような状況でございますし、これだけの観光地でありながらクラスターが一件もないということも、我々も含めて、そしてまた、各事業者さん、そして、市民の皆さんが協力、一致して感染拡大防止に努めていただいたおかげではないかと思っております。新型コロナワクチンの接種も県内最速のスピードで進んでまいりました。そういったところも含めて、医療機関も含めたオール嬉野体制での新型コロナウイルスの封じ込めというものが今や功を奏しつつあるということを前提に、今後の観光戦略を反転攻勢に向けて進めていくべきときだというふうに考えておるところでございます。

新型コロナウイルス後ということで長期の展望に立ちますと、私はこれから密が密を呼ぶ時代ではなくなったというふうに思っております。というのが1か所に5万人を集めるというような大規模なイベント、それがまちなぎわいだというふうに旧来では思われていたと思っておりますけれども、こうしたコロナ禍を経て、そういったものがまずもって忌避される時代でもございますし、また、そういったにぎわいというものが地域を疲弊する副作用も伴うということもだんだん分かってきたのではないかなと思っております。

私は同じように観光が地域の経済を活性化するためのものでなければならぬと考えております。そういった観点からいくと、嬉野市内、そしてまた、周辺の地域も含めて、魅力的なスポットを100か所、そして、そこに500人ずつ、掛け算すれば、5万人、1か所に大勢の人数を集めるよりも、魅力的なスポットを点在させていく、そこを周遊していただく、また、何回も何回も嬉野市に泊まっていただくためにも、いろんな組合せの中で商品として提案を

していく枠組みをつくっていかねばならないと思っております。

そういった意味では魅力的なスポットをたくさん展開していくにはこれからの人づくりが欠かせないと思っております。今回、9月末から日本トップレベルの講師陣を招聘した観光人材育成事業うれしの未来づくり塾、また、国のスペシャリスト派遣事業を活用した、嬉野市、嬉野市商工会及び嬉野温泉観光協会等の関係者合同で専門家からの指導並びに支援も受けておりますし、和歌山大学観光学部の専門家指導及び支援を生かしながら、新たな観光戦略の練り上げ、そしてまた、人材育成にも努めているところでございます。

今後ともこうした長期の展望に立った観光戦略で地域の経済を加速度的に循環させていく枠組みをつくっていくことこそが、コロナ禍、アフターコロナの観光戦略ではないかというふうに考えておるところでございます。

以上、森田明彦議員の質問に対するお答えとさせていただきますと思います。

○議長（田中政司君）

森田明彦議員。

○9番（森田明彦君）

ありがとうございました。詳しく今後の取組についてお話をいただきました。

私のほうからは、今述べられたことの内容の一つ一つということではなくて、大きな捉え方として、また状況が落ち着いてくれば、インバウンドの観光も当然、国自体が進めておられますので、国内のみならず、インバウンドのことも継続はされると思いますけど、特に私は従来からある足腰の強い国内の観光というものに、インバウンドが進んできた状況の中でもやはり6割近くはあくまでも国内の旅行者であるというのが従来から言われております。そういったことでまず、国内の旅行にはさらにまたしっかり力を入れていかれるのかということの確認と。

もう一点は、従来型の温泉に泊まって急ぎ足で次の目的地、もしくはもう帰られるというような流れではなくて、宿泊前、もしくは宿泊後にやはり嬉野をもう一つの魅力体験をしていただく、いわゆる体験型観光というものも今クローズアップされていると思っております。

そういった中で、例えば、以前、私も申し上げましたけれども、アジアの森辺りで民間の方がされているマウンテンバイク等の施設等も開発をされていると聞いております。そういったものを含めた、いわゆる汗を流して温泉に入ってもらい、そういう体験を通してまた嬉野のよさを見詰め直してもらい、そういったものもやはり今後必要になってくるのではないかと考えております。

その点、この2点について市長なりのお考えをお聞かせ願えればと思います。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

今回、コロナ禍を経て市民限定のキャンペーンとか県民限定のキャンペーン等々の影響もありまして、かなり近場の方から嬉野にお越しいただく方が今増えている状況ではないかなと思っております。

それゆえに、いろいろ嬉野のことを既に知っている方が見て回るといような状況でありますので、どちらかというと、本物志向が強まったなというような実感があります。地域の歴史を深く知るような体験であったりとか、また、自然のよさ、そういったものにももっともっと体感できるようなスポットの充実というのが必要になってきたかなと思っています。その一つがやっぱり塩田津に最近魅力的な店ができたというところもありますけれども、そういったところで人が増えているというのも本物志向の高まりの影響ではないかなと感じておるところでございます。

そういった落ち着いて旅慣れた方が歴史をもっともっと魅力的に感じていただくスポット、これは今議会の予算でもお願いをいたしました情報発信施設、交流施設もその一環だと思っておりますし、また、こうした誘客事業につきましてももう少し情報発信のやり方も、いわゆる温泉、お茶、焼き物というような、嬉野の地域資源として誇るべきものであることには変わりありませんけれども、もっと深いところでの、じゃ、具体的に何を楽しむのかというアクティビティまで含めてこれは提案をしていかなければならないというふうに実感しております。ですので、国内への誘致、これはインバウンドの回復もあと5年はかかるであろうというふうな観点から力を入れていくという方針に変わりはないと思っております。

そのアクティビティ、嬉野の滞在時間を増やしていくような仕掛け、体験型観光商品につきましても、先ほど人材育成を進めていると、やはりそんな体験型のイベントに関しては、それを教えたりとか実践する人がいないとなかなか実現できないというふうなところでもあります。私としては具体的な、例えば、以前、温泉公園で、朝、ヨガをするというような体験なんかもすごくいいなと思っていましたし、そういった地元にもインストラクターの方もいらっしゃるようですし、そういったような体験をしていただくとか、また、森田議員もいろいろとそういったオルレのコースの案内も務めていただいていますけれども、そういった自然ガイドをもっともっと育成するとか、いろんな人づくりと並行してそういったアクティビティ、体験メニューの充実を図ってまいりたい、そのように思っております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

森田明彦議員。

○9番（森田明彦君）

様々に考えていらっしゃると思いますので、今後ともしっかりと進めていただきたいということをお願いしておきます。

次に、同じく観光の戦略の内容ですけれども、いわゆる道の駅ですね。今回、新幹線嬉野温泉駅前での開業予定をされている道の駅、これは新たな観光コンテンツになり得ると考えております。今後、行政としてどのように関わっていかれるのか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

いわゆる道の駅の構想につきましては、今、国土交通省と協議を重ねておるところでございます。登録手続を今行っているという状況でございます。西九州新幹線開業の折には、道の駅のみならず、こうした道の駅というのは皆さん直売所とか物産所をイメージしがちなところではありますけれども、休憩施設、道路の駐車場、情報発信施設というのが道の駅でございますけれども、それについては国の直轄事業で行っていただくエリアでございますけれども、それも同時に開業できるように今協議を進めているというような状況でございます。

これから私たち、そこと連携をしながら、民間が開発する商業エリア、それから、私どもが直接整備をいたしますのは観光交流センターでございますけれども、駅を降りてすぐに荷物を預けていただいてお泊まりの旅館に配送して、そこから旅が始まるという、まさに嬉野市、また、西九州全体を一つのディズニーランドのようなテーマパークと位置づけたような形での玄関口としての整備充実を図ってまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

森田明彦議員。

○9番（森田明彦君）

ありがとうございます。やはりこの件につきましては、ちょうど先月に日経新聞のほうでも道の駅ということで大きく特集を組んでおられまして、ここでも全国の状況を詳しく見ておりましたけれども、そこには観光政策に力を入れる自治体と連携、もしくはそういったことで協力体制がしっかりやっぺいらっしゃるということでございます。加えて、嬉野市もそうありますけれども、いわゆるマリオット・インターナショナルのホテル、この併設というのも全国的にも何か所もやっぺいらっしゃるということも併せて報告されております。

そういった中で嬉野市といたしましても、立地的に考えても一番重要な位置に設置ということで、高速道路沿いとはちょっと違うんですけども、ある意味、また別の大きな飛躍のチャンスを秘めているのではないかなと思っていますので、こういうことでの行政自体も全国的にも各自治体も様々な力を入れているということでございます。

そういった中で、先ほどもお話しいただきましたけど、改めて市長のお考えなりお尋ねい

たします。連携、もしくはそういったことでお願いいたします。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

今、嬉野温泉駅、駅舎はほぼ完成ということで先日、市民の皆様にも、抽せんという形で大変心苦しくはございましたけれども、公開をさせていただいたところでもあります。その際にも、こうした駅の完成予想図の動画、今ホームページでも公開をさせていただいておりますけれども、こうした駅前の青写真も皆さんにようやくお示しをできるような段階になったというような状況でございます。

そういった中でどう連携を図っていくのかということでございますけれども、これは先ほどのコロナ禍の観光戦略とも密接に関係するわけでありましてけれども、ここの駅前で全てが完結するようなまちづくりを行っておりません。むしろここでは頭出しで嬉野のお茶がいいですよ、温泉がいいですよ、歴史豊かな町並みが待っていますよというような、これからの旅の高揚感を演出する空間としてこのデザインをされています。ここを起点にいろんな嬉野の魅力的なスポットであったり、また、周辺の鹿島、太良の有明海沿岸地域であったりとか、今連携を結んでいる武雄、有田のような周辺地域、遠くは県境をまたいで佐世保とか長崎、そういったところにも、この駅を起点に嬉野温泉にお泊まりいただいて、そこを起点に旅を始めていただく、そういった場所にしたいというふうに思っておりますので、こうした物産を売るところ、また、ここの旅のトリップベースのホテル、これは旅の基地というふうに直訳するので、まさにその考え方なんですけれども、まさにここに泊まっていただいて、ここで全て完結するのではなくて、いろんな地域に人を流していく、そういった駅前の誰も見たことのない駅的设计思想をまさに今から実現をするということで、嬉野市はこれからが楽しみだということを申し上げておりますので、これの実現に当たっては地域の皆様との連携を図ってまいりたいと、そのように思っております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

森田明彦議員。

○9番（森田明彦君）

とにかく初めてのことでございますので、非常に期待をいたしております。よろしく願います。

次に入ります。

2項目め、災害対策、今回は地震について取り上げております。

今月に入りまして、皆さん御承知のとおり、トカラ列島の群発地震も非常に気になってお

ります。今回取り上げておりますのが、南海トラフ巨大地震への認識及び佐賀県内の断層帯についての認識をまずお伺いしたいと思います。

○議長（田中政司君）

総務・防災課長。

○総務・防災課長（太田長寿君）

それでは、防災部局の観点のほうからお答えをいたしたいと思います。

中央防災会議・防災対策推進検討会議の南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループによる調査結果によります、これは内閣府でございますけれども、佐賀県全体の南海トラフにおける最大クラスの地震・津波による被害は、九州地方が大きく被災するケースにおいても建物の全壊棟数が佐賀県内では約20棟、死者数も僅かと想定をされております。これで嬉野市のほうを見てみますと、市内全域が最大震度4の範囲にございます。隣接する市町でも最大震度5弱の想定とされておまして、嬉野市に関するこれ以上の詳しい被害想定は示されてはおりませんが、予想震度から判断する限りでは、人的、物的被害とも僅かであると予想をされております。

それで、県内の周辺の断層帯に関して申しますと、県内及び周辺地域に存在する活断層のうち、本市に震度6強以上の被害をもたらす可能性がある活断層は、佐賀平野北縁断層帯、それから、西葉断層、それから、こちらは長崎県になりますけれども、多良岳南西麓断層帯がでございます。中でも佐賀平野北縁断層帯及び西葉断層は隣接する市町が最大震度7と想定をされておりますから、場合によっては本市においても震度7の地震が起こり得る可能性も否定できないという状況かと思われまます。このうち被害想定が最も多いのは冬の深夜で一番近い西葉断層で地震が発生した場合と想定をされます。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

森田明彦議員。

○9番（森田明彦君）

ありがとうございます。2つの質問に対してはしっかり調べていただいております。

私が言いたいのは、特にこの地震につきましては、私ごとになりますけれども、ちょうど平成7年でしたので、26年前になるんですけど、阪神淡路大震災、ちょうどこの折に私は以前の仕事の出張で奈良県への出張の折に大阪市内の宿舎で震災を経験いたしております。早朝5時46分の発生でございましたけど、物すごい揺れで目が覚めまして、瞬間的に立ち上がったんですけど、立ってはおられませんでした。布団にしゃがみ込み、それで、厨房の食器棚が崩れ落ち、食器の壊れる音等が耳に入ってきてまして、部屋は薄暗い中でしたけれども、壁が波打ちまして、それからしばらくはやはり震えが止まらなくて布団の上に呆然としていたという記憶がございます。そういったことで非常に地震に対する恐怖といいますか、人一

倍私自身が体験をいたしているんじゃないかなということずっと考えておりました。

特に先ほど冒頭申しましたけれども、今月入って起こっているトカラ列島の地震も、それから、南海トラフ、それからまた、さきの東北の大震災、いずれも時々皆さんニュースでお聞きになると思いますけど、プレートの沈み込みによる地震、いわゆる海溝型と言われる地震なんですけれども、そういったことで非常に危惧をいたしております。

そしてさらに、私が今回取り上げたのは、佐賀県内の断層帯、断層帯の地震といいますと、これも九州熊本で起きた地震は断層帯の断層のずれによる地震という、いわゆる直下型と言われる地震なんですけどね。特に私が気になるのは、遠いところでの南海トラフ、しかも、30年以内に70%から80%の割合で来ますよという起こり得る地震だという捉え方は数年前から言われております。先ほど課長の答弁にもございまして、嬉野市そのものの被害の想定もある程度なされておりますけど、特に佐賀県内にある断層帯に南海トラフの地震によって連動的に起こり得ることもやはり想定されるのではないかなということが一番気になるところでございます。

そういったことで、このこと自体をとやかく捉えるものではなくて、まず、今回言いたかったのは、嬉野で最悪のシミュレーションもしていただき、豪雨、台風等のかなり正確な予測ができるものと、こういった大地震等はなかなか予測が難しい、そういったことで、やはりその後の対応、それから、できる限りの準備というものを言いたいと思います。

そういったことで、日頃のとにかく防災の活動でありましたり、それと、少なくとも家庭でできる最低限のこういうことはやっていきましょうというようなものの呼びかけ、そして、起こっては困るんですけれども、最悪の場合、避難所の充実、そして、熊本の避難所運営をされた方のお話も研修等でお聞きいたしておりますけれども、避難所運営のノウハウ、これ辺りの少なくとも若干の訓練等もしておかなきゃいけないんじゃないかということを思っております。

そういうことでの質問と捉えてください。ここについて最悪のシミュレーションを示し、それに関する、まず、家庭でできることの準備、それと、避難所の充実、そして、避難所運営のノウハウ、この辺について今後しっかりやっていただきたいということで、そのことについての質問といたします。

○議長（田中政司君）

行政経営部長。

○行政経営部長（永江松吾君）

お答えいたします。

地震についての備えとか避難所運営についての御質問だと思いますけれども、まずもって、地震に対する啓発につきましては、3年前に防災マップをつくっております。この中に地震の項目もありますので、ここにいろいろどういことをしましょうという避難のマニュアル

みたいなものを書いてありますので、こういったところをぜひ御覧になっていただきたいと思ひますし、津波に関しても、あまり津波の想定はないんですけれども、津波の分についても載っております。こういったところをもう一度啓発しながら、機会があったら、そういう啓発を行っていききたいと思っております。

それから、避難所につきましては、やはり大雨と違ひまして、避難所が損壊するというふうなおそれもありますので、そういったところはきちんとどこが安全かというの見極めながら避難誘導のほうをやっていききたいと思ひます。

以上です。

○議長（田中政司君）

森田明彦議員。

○9番（森田明彦君）

ただいま防災マップ上のことも説明していただきましたけれども、要はやはりこれをしっかり市民の方がまず目を通していただくという、配布して終わりではなかなか難しい。ただいま申しましたように、機会を捉えてそれを実際に見ていただく、もしくは行動に移していただくような準備等も今後しっかり考えていただきたいということでお願いをしておきます。

それでは、次の質問に入ります。

次はこの関連でございますけれども、従来から市内の木造住宅の耐震診断の状況、それから、以前実施されたブロック塀の安全確保対策の進捗状況をお伺いいたします。

○議長（田中政司君）

建設課長。

○建設課長（馬場孝宏君）

お答えいたします。

市内の木造住宅の耐震診断の状況につきましては、現在、嬉野市では平成28年度から耐震診断の補助制度を活用いたしまして、毎年度、住宅の耐震化に伴います啓発等を行っているところでございます。これまでの実績といたしましては8件の診断を実施しておりまして、まだ改修工事については至っておりません。今後も個別訪問や耐震化の必要性に係る普及啓発等を行いながら、住宅の所有者に対して直接的に耐震化を促す取組を行っていくということで考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

お答えを申し上げたいと思ひますけれども、平成30年度に大阪北部で地震がありまして、震度6弱の揺れが発生をしたところでございます。その際に、子どもさんが不幸にしてお亡

くなりになりました。そういう事件を受けまして、嬉野市内での各学校におけるブロック塀の点検を実施しております。調査と安全点検という両視点から行ったところでございますけれども、1つだけ大きく修正をした部分があります。それは吉田中学校の屋外トイレの前のブロック塀を撤去いたしまして、現在はいわゆるスチール製のようなフェンスに替えて目隠しをしております。そのほかに確認をしたところでございますが、五町田小学校のプールの更衣室の前のブロック塀とか、久間小学校のプールの更衣室前のもの、それから、大草野小学校のプールの更衣室前のトイレの前のブロック塀とかございましたので、金属探知機を使って金属がどれくらい入っているかということもチェックをしております。今のところは安全が十分保たれているというふうなことでございましたので、その後は定期的に安全管理を各学校がチェックをしながらひび割れ等がないような形で目を光らせている現状でございます。

以上、お答えにしたいと思います。

○議長（田中政司君）

森田明彦議員。

○9番（森田明彦君）

ありがとうございました。学校関連のことはよく分かりました。

それと、建設課長、もう一つ質問ですけれども、木造住宅の耐震に関しては状況については理解いたしました。今、学校施設関係のブロック塀に関しては教育長から教えていただいたんですけど、私が気になるのは市内の通常のわたくしの家ですね、個人の住宅、そして、特に空き家になっているところの放置されている家屋といいますか、その近辺でのブロック塀の非常にひび割れ等があつて、それぞれの区のほうからもお話はあっているのではないかなと思いますけれども、そういった箇所の点検等はされていらっしゃるでしょうか。それと、把握ですね。お分かりになるようでしたら一応お答えいただきたいです。

○議長（田中政司君）

建設課長。

○建設課長（馬場孝宏君）

お答えいたします。

実際、市道にかかるものに関しては幾らか状況等は把握しておりますが、空き家に対してのブロック塀の箇所数というのは把握はできていない状況でございます。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

森田明彦議員。

○9番（森田明彦君）

現状はやはりそうですね。実際、先ほども申しましたように、そういった箇所があるのも

事実でございますので、担当、もしくは各自治会あたりにもお願いをされてそういう把握も併せてしていただき、それから、必要な事案であれば、それなりの何か対策を取るように、これはお願いをしておきたいと思えます。

それでは、この地震関係でもう一点ですけれども、大地震による水道管の破損が非常に懸念をされるところでございます。非常に大事な社会インフラが壊れるということになりますので、水を絶たれるということになりますので。

厚生労働省による昨年3月末の基幹管路の耐震適合率というのは全国平均でも40.9%という報告があります。これに関しての嬉野市の現況をお伺いします。

同時に、佐賀西部広域水道企業団による老朽化管路の状況、修復等の進捗状況についてお伺いをいたします。

○議長（田中政司君）

環境下水道課長。

○環境下水道課長（植松英樹君）

お答えいたします。

佐賀西部広域水道企業団へお尋ねをしたところ、今現在、耐震適合率については令和2年度現在43.26%ということでした。

令和2年度末における嬉野市の配水管総延長が30万3,468メートルに対し、40年以上経過する老朽管の延長については4万5,694メートルで、総延長に対する老朽管残存率については15.06%となっているということでございます。

それとまた、平成30年度から令和2年度にかけて嬉野市配水管の更新率については、令和2年度の水道事業統合を機に1%台から4%台に増加しており、老朽管残存率も16.67%から15.06%へ改善しているという状況でございました。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

森田明彦議員。

○9番（森田明彦君）

現況は分かりました。なかなか進んでいないというのが実情ですね。

それこそ地下に埋設されておりますので、なかなか目視も当然難しい、しかし、大きな地震によって、あっちもこっちも管路を絶たれるということを想定されるわけでございます。そういった意味で耐震の基準に満たした管路の布設というのをやはり急いでほしいというのがございます。なかなか簡単にはまいらないということは理解いたしますけれども、この問題に関しては、市長、やはり広域で、もちろん嬉野市だけの問題ではございませんので、そういった折にぜひこの問題に関しては特に進め具合を急いでほしいと、急いでいこうというようなことも併せて何かそういう機会がありましたら、力を入れて訴えていただきたいん

ですけれども、いかがでしょうか。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

私は佐賀西部広域水道企業団の議員という立場でございます。当然、全体的な水路経営を健全化していく中で、そういった財源を捻出して、私どもに我田引水、文字どおり、そういうことが簡単にできる立場ではありませんけれども、私どもも地元の声として必要性を訴えていきながら、全体的な財源捻出、それからまた、こうした国の事業、有利な事業の活用等も見込みながら提案をしながら、こうした水路、強靱なインフラづくりのために努力をしてまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

森田明彦議員。

○9番（森田明彦君）

それでは、最後の質問に入ります。

3点目ですね。今後の林業政策についてということでお尋ねをいたします。

非常に林業がここ長年停滞といいますか、なかなか難しい状況ではございますけれども、先も見越してのことではございますけれども、まず、嬉野の現状はどのようになっているのかということでお尋ねをいたします。

○議長（田中政司君）

農林整備課長。

○農林整備課長（馬場敏和君）

お答えいたします。

本市の私有林の面積は6,441ヘクタールで、そのうち約7割が人工造林となっております。本市の林業を取り巻く情勢は依然と厳しいものだと考えております。木材の価格については今年に入ってから若干の上昇はあるものの、労働者の高齢化、あと、後継者不足等により、管理不十分な森林が多くなっている状況であります。

森林環境譲与税を利用して、上不動地区の一部で私有林の荒廃状況、あと、所有者に対して森林管理運営を市に委託するかどうかの意向調査を行っております。荒廃状況については、10年間、あと、間伐等の整備、管理を行っていないという回答が約7割。市に経営管理の委託を検討したいという回答が約7割以上でありました。

調査結果を踏まえ、嬉野市の林業に関して厳しい状況であると考えております。

以上です。

○議長（田中政司君）

森田明彦議員。

○9番（森田明彦君）

現状については分かりました。

高度経済成長期の60年代にほぼ木材資源が刈り尽くされてしまったということで、この不足分を補うために外材の輸入が自由化されて、結果的に国産材の非常にもうからない林業というようなことが非常に始まってきたのではないかとということで捉えております。

ところが、例えば、最近の米国あたりの住宅等の非常に進んでいることも踏まえて、ここ最近はもうかる林業へ生まれ変わる転換点にあるのではないかとというようなことも言われているわけですが、これに関しては担当課としては感触的にどのように捉えていますか。

○議長（田中政司君）

農林整備課長。

○農林整備課長（馬場敏和君）

お答えいたします。

先ほど議員が発言されましたように、今アメリカの住宅市場の活況ですね、あと、中国などの経営活動の活性化、また、世界的にコンテナ不足ということがありまして、国産材の需要が増えているという状況であると思います。

もうかる林業をどう捉えるかということですが、これまでは育てるだけで売上げに結びつかない保育の時期だったと思います。今人工造林の約半数が樹齢50年以上となって本格的に伐採できる状況にあるかと考えております。今、主伐木である人工造林の年間成長量の約4割ぐらいしか伐採されておらず、年々累積されている状況にあるかと思っております。そのことで期間を待たずとも出荷ができる、あと、収益につながるという意味でもうかる林業と捉えるのが可能かと思っております。

しかしながら、市内の森林所有者の多くは小規模で経営意欲が少なく、まずは生産性向上のため、集積、集約が必要かと考えております。

木材価格が上昇している今、国の事業を活用し、森林組合や民間の意欲のある森林経営体の支援、また、林業者に対して間伐や植林、下刈りとか支援を行っているところでございますが、今後も担い手の育成が必要かと考えております。

以上です。

○議長（田中政司君）

森田明彦議員。

○9番（森田明彦君）

ありがとうございます。非常に難しい問題ではございますけれども、今、課長も答弁して

いただきました。

市長、最後になりますけど、時間はかかると思うんですけども、皮肉にも米国、そして、今紹介がございましたように、中国等の住宅建築が非常に活況、そういったことで逆に最近外国に非常に持っていかれているというようなことも踏まえまして、市内には民間で活動されている事業所もございますけれども、そういう様々な力も結集されて、そして、先ほど課長が申されましたように、山の持ち主さんたちのそういう後継者の問題もありますけれども、なかなか以前のようには戻らないと思うんですけども、そういう意味でもうかる林業というのはなかなか難しいかも分かりませんが、そういう方向に持っていくための努力はしていただきたい、行政としてもできる限りの努力していただきたいということで、市長、最後になりますけど、お考えを示していただければと思います。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

林業に関しましては、今ウッドショックと言われるような木材価格の高騰というものがありまして、公共施設の建設等におきましても非常に建設費が跳ね上がるようなことであつたりとか、そういったような状況でいろんな各方面に影響を与えている状況であります。

このウッドショックの構造的な問題としては、当然、議員が御指摘いただいたような外国の需要がすごくあるということだけじゃなくて、外国の需要に耐え得るだけの伐採したり加工する人材が不足しているというところが一番こちらの中の近いところで起きている問題の根本だというふうに思っております。

そういった意味では、市内、幸いにも事業所がございます。そういった事業所の人手確保について私どもも一生懸命支援をしていく必要があると思えますし、この地域内でこの地域の木材に対しての需要を生み出していくことがまずは大事なのではないかなというふうに思っております。

この森林環境譲与税の財源というものはかなり幅広く使えます。公共施設の木質化とか、そういったところも含めて、これはまずは地域内で需要をつくり出し、そして、人材の育成をしっかり支援していくことが、ウッドショックの地域の中で起きていることの根本解決には至らないかもしれませんが、解決の一步に向かうのではないかと、ひいては7割が山林に覆われている地域の経済の活性化にもつながっていくのではないかとというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

森田明彦議員。

○9番（森田明彦君）

市長ありがとうございました。

それでは、これで質問を終わります。

○議長（田中政司君）

これで森田明彦議員の一般質問を終わります。

一般質問の議事の途中ですが、議場の換気のために10時55分まで休憩いたします。

午前10時42分 休憩

午前10時55分 再開

○議長（田中政司君）

それでは、再開します。

一般質問を続けます。

議席番号3番、諸井義人議員の発言を許可いたします。諸井義人議員。

○3番（諸井義人君）

おはようございます。議席番号3番、諸井義人です。傍聴席の皆様、早朝より傍聴ありがとうございます。最後までよろしく願いいたします。

ただいま議長の許可をいただきましたので、通告書に従い質問をいたします。私も4年間の1期目の議員生活の中で15回目の一般質問と今回になります。今までいろいろと質問をしてみましたけれども、丁寧に答えていただき、丁寧な施策をしていただいたことに感謝いたします。

それでは、今回は大きく2項目について伺います。

最初に農福連携について、次に学校教育についてです。

3年前に文教福祉常任委員会の視察で京都府京田辺市の社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会山城就労支援事業所としての「さんさん山城」という施設を訪問いたしました。そこで生き生きと働いておられた障がい者の方たちのことを思い出しながら質問をいたしたいと思っております。

農福連携とは農業と福祉が協力連携してマッチングを行い、それぞれの課題を解決しながら、地域共生社会の実現につなげ、障がい者を支援する取組のことと私的には理解しております。

そこで、嬉野市の農福連携における基本的な考えについてお尋ねいたします。

あとの質問及び再質問については質問席より行います。よろしく願いいたします。

○議長（田中政司君）

ただいまの質問に対して答弁を求めます。市長。

○市長（村上大祐君）

それでは、諸井義人議員の質問にお答えをしたいと思います。

農福連携についての御質問でございます。嬉野市の取組といたしまして、今後の基本的な考え方をお尋ねいただきました。

農福連携というものは嬉野市の地域特性に非常にマッチングしたすばらしい取組ではないかと大いなる可能性を感じているところでございます。

御存じのとおり、嬉野市はいっぱい農業のそういった生産物を抱えておりますし、そういった嬉野ブランドとして必死に定着を図っているところでありますけれども、ある程度は認知をされているような状況でございます。

一方で、障がい者福祉に関しまして、嬉野市は人に優しいまちづくりを掲げて、障がい者の皆さんの生きがい、そしてまた、生活の自立も含めたところでの政策を数々打ってきたところでありますし、環境的にも、県立ではございますけれども、特別支援学校がある。そしてまた、障がい者の作業所も大規模なものが複数あるというような地域特性に恵まれております。

そういったところを農業の現場と福祉の現場というものがしっかり手を携えていけばブランド力の強い、競争力のある農業生産物もできようというふうに思っておりますし、その一方で、障がい者の皆さんのこうした福祉の充実も同時に図られるというようなものでございます。

そういった意味では、我々も具体的なところで進めてまいりましたところでは、新型コロナウイルスで非常に困ったときに、特に皆さんの花の苗の流通が止まってしまったというようなところもありましたけれども、そういった農業現場でのお困り、そして、障がい者の作業施設でも、こうした人の流れが止まったことで作業量が減って障がい者の皆さんにお渡しする賃金が少し少なくなってしまうというような困り事がありました。

この2つの困り事を一つに合わせて解決を図るということで、小学校、そして幼稚園の入学の方に花苗の寄せ植えを新型コロナウイルス対策の補助金を使ってさせていただいたり等もしました。当然、花をもらった子どもたちも大変喜んでもらいましたけれども、そういった作業に当たっていただいた方、花苗を提供していただいた皆さんも大変そこは事業の経営上の助けになったというような好評をいただいたところであります。

まさに、こうした嬉野市が一つになって、そしてまた、心を一つにこの難局を乗り越えていく大きなきっかけにもなったと思いますし、それは将来を見据えれば、それが産業として成立をすれば我々としてはこれから農福連携というものに大いなる可能性を見出し、この方向で進めていくということを考えていきたいというふうに思ったところでございます。

こんなわけでありますので、嬉野市としてはこの農福連携というものを積極的に進めていくという基本的な考え方を持っているということでお答えにしたいと思っております。

以上、諸井義人議員の質問に対するお答えとさせていただきます。ありがとうございます。

○議長（田中政司君）

諸井義人議員。

○3番（諸井義人君）

ただいま市長より農福連携については積極的に進めていきたいというようにお言葉をいただきました。ありがとうございます。積極的に進めていってほしいと思います。

それでは、担当所管として産業振興部長に同じようなことで、農業に関しての農福連携についてのお答えをいただきたいと思います。

○議長（田中政司君）

産業振興部長。

○産業振興部長（中村はるみ君）

お答えいたします。

先ほど市長の答弁の中にありましたように、農福連携に関しましては、農業サイトでいきますと、人手不足の解消になるということもありますし、福祉サイトでいきますと、障がい者の方の社会参加につながるということで、高齢者にとりましても生きがいを見出せるのではないかとということで非常に大きな力になるのではないかと考えております。

ただ、それぞれの障がいの特性とか状況によっては、やはり必要なサポートがあるのではないかと考えております。その辺がうまくフォローできれば、今後の農業政策を進める上では大きな力となると考えておりますので、今後も農福連携については取り組んでいきたいと考えております。

以上です。

○議長（田中政司君）

諸井義人議員。

○3番（諸井義人君）

ありがとうございます。市民福祉部長のほうにも同じ質問をいたします。

○議長（田中政司君）

市民福祉部長。

○市民福祉部長（筒井八重美君）

お答えいたします。

昨年の6月に農福連携等推進会議の中でも農福連携等推進ビジョンが取りまとめられて、「福」の広がりへの支援として高齢者、生活困窮者、ひきこもり等の状態にある者、障がい等も含めたところで農作業を通じた就労社会参加支援の実践が見込まれるということで、取組促進に向けた農業分野と福祉分野の連携を一層推進していくような取組が必要ということが実際情報提供としてなされたところでもあります。

こういったところを踏まえて、嬉野市としては、先ほど市長や産業振興部長が申しあげましたように、農業側のほうとして、障がいをお持ちの方たちにとっては障がい特性に応じた

作業の確保等も踏まえたところで、今後こういう農業分野と福祉分野の連携が一層促進されることによって、全国展開を含めたところで佐賀県のほうでも本年10月に農福連携プロジェクト推進チーム会議というのが立ち上げられたところというようなことも踏まえて、嬉野市としても農福連携の推進というのが今後ますます必要になってくるというふうに考えているところです。

以上です。

○議長（田中政司君）

諸井義人議員。

○3番（諸井義人君）

私がこの質問を出したのは、20日前の11月22日でしたけれども、その後、農福連携についていろんな調べ物をしていた途中、佐賀新聞が今月12月4日の土曜日に、「みんなが生き生き働ける佐賀へ」、それと、「農福連携」に注目集まる」というような特集で、完全2面開きで特集をされておりました。ああ、私が質問を出していたのと同じように、県自体としても考えが同じになっているんだなということで、タイムリーな質問になっているのかなということで質問をいたします。

嬉野市が出しておられる障がい福祉計画のほうを見ると、嬉野市にはただいま現在、障害者手帳所持者はどのくらいいるかということで調べたところ、療育手帳も含めて2,145名の方が障害者手帳をお持ちになっているということを知りました。その中で、働く意欲がある方とか、幾らか働いて社会貢献をしたいという障がい者の方もかなりの数がおられるんじゃないかなと思います。そういう方たちの社会参画というかな、幾らかでも働いて社会の貢献になりたい、また、幾らかでも働いてお金をもらえらるということになりますので、そのお金で幾らか幸せな生活がしたいと考えておられる方もおられると思います。

2,145名の中でどのくらいの方が働く意欲があるのかなと考えたところ、福祉課のほうではどのように考えておられますか。

○議長（田中政司君）

市民福祉部長。

○市民福祉部長（筒井八重美君）

お答えいたします。

今こちらに出ている2,145名、皆さんが手帳をお持ちということではありますけれども、その方たちの中ではもちろん就労を既に、一般的な就労をされていらっしゃる方もいらっしゃると思いますし、なかなか就労が難しい方というのもしらっしゃるというような形で、いろんな方がその中に混在されているということをまず御理解いただきたいと思います。

そういった中で、どれだけ就労の意欲があらわれるかというところは、実際そこまで、どの方たちの何人までがどの状況、障がいの状況というところで今区分分けをしているわけでは

ございませんので、こちらでその部分について発言等は避けさせていただきたいと思います。

以上です。

○議長（田中政司君）

諸井義人議員。

○3番（諸井義人君）

それでは、次の2番目の質問という形になりますけれども、嬉野市での取組の現状と課題について伺うということですが、農業をすると自然に関わった仕事ということと、おてんと様というか、気候に左右されながらなりわいをするという形になります。そういうところが非常に障がい者の方の精神的にもいいし、身体的にも非常にこれが効果があるというふうに最近言われております。そういう点で嬉野市の取組と現状の課題についてお尋ねをいたします。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

やはりこうした嬉野市でも既にそういった考え方を体現していただいている方も事業所も含めて何名かいらっしゃるということでございますけれども、そういったところとか、あと私も5年前に新聞社にいたときに農福連携特集というのを1面特集をつくったことがあります。熊本県、それから多久市、太良町、そういったところの現場も視察をさせていただいて、そういったところもお話を聞くんですけども、共通するのはどういう作業をしていくのか、これは障がいに応じてやっぱり全然違うので、こうしたフォーマットといいますか、ひな形みたいなものがなかなかつくりにくい、その子の障がいに応じた作業をどういうふうにつくっていくかというところが一番福祉施設側が課題に感じているところだというふうに思いました。

例えばですけれども、ちょっとこだわりが強過ぎる特性を持って対人関係が苦手としている子に対しては、雑草をひたすら取っていく、そういったところに障がいを逆に長所として捉えて、細かい雑草も全部一本一本引っこ抜いていくような除草作業に従事をさせているというようなお話を聞いたこともありますし、やはり比較的対人関係が得意な子は販売会の表に出して、本当に屈託のない笑顔でこうして食べてってお勧めするような子とか、こういう清潔、きれい好きな子なんかはトマトとかをこうやって磨き上げて箱詰めをする作業とか、整然と整えるので非常に宝石箱のようなトマトのパッケージの仕方みたいなことも、非常にそれが商品の付加価値につながる、転じて長所になるという部分もあるというふうなお話を聞くように、障がいに応じて何が得意で、何が不得意としているのかというところを、いろ

んな施設になれば20人30人の方がいらっしゃると思いますので、その利用者さんが障がいの特性を組み合わせると一つの商品をつくっていくということでもありますので、そのできないところをそういった職員さんが補っていくというような作業工程のつくり方も含めて、我々もやっぱりその行政のサポートは欠かせないなということを実感したところでございます。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

諸井義人議員。

○3番（諸井義人君）

ありがとうございます。先ほど私が壇上で言っていた、「さんさん山城」というところにおいてどういうふうな農福連携をされていたかということ、そこは大体難聴者が働きに来られておりました。しかし、難聴者が来られている間に、ひきこもりの方に声をかけたら、ひきこもりの方がだんだんそこに通うようになって、一生懸命働く喜びを味わうようになったという形で、ひきこもりの方もそこで働くようになっておられました。

その「さんさん山城」というところにおいては、6次産業的に自分たちで生産したナスとかエビイモとかなんとかを自分たちで生産し、商品化をし、販売までされておりました。それと、自分たちがつくった材料でレストランを運営されているというようなすばらしい施設であったと思っております。

その中で働いておられる方は楽しく、笑顔を持ちながら生き生きとされていたなというふうに思っております。

農業をすると、土を触ると汚いと思う方もおられますけれども、土の香りを嗅ぎながら農業をしておると非常に心穏やかになってくる。自分も農業をやっていますけれども、土を触っておると心穏やかになってくるんじゃないかなと感じています。

そういうふうに障がい者が簡単に組み入れる作業から、先ほど市長が言われましたように、障がい者にはいろんなタイプがありますけれども、障がい者に合った作業を農業分野で提供をしていって、農業の担い手不足というか、人手不足を幾らかでも解消できればなと思っています。

そこら辺で農業政策課長にちょっとお尋ねいたしますけれども、農業面においてそういうふうな作業的なことが多々あるんじゃないかと思えます。今度ハウス団地も造成されておりますよね。ハウス団地辺りのところでも植え込みとかなんとかは難しいかも分からないけれども、収穫作業等にはそういう障がい者の方たちの一つの手をお借りして、うまく経営的に回っていくような形もあるんじゃないかなと思えますので、そういう取組はできないか、お尋ねいたします。

○議長（田中政司君）

農業政策課長。

○農業政策課長（井上 章君）

お答えをいたします。

実際、市内におきまして農福連携というのがもう既に取組が始まっているところではございます。例えばキュウリの事例を申しますと、この方は平成30年から取り組まれておりますけれども、武雄市の授産所の方と連携をいたされまして、障がい者の方を3名、週3日程度雇用をされているということでございます。こちらの農家の場合は、従来の熟練したスキルが必要な摘心栽培から、誰でもが簡単かつ効率的に作業ができるような栽培方法、つり下げ栽培に変えられまして、障がい者の働きやすい環境を整えられているということで伺っております。

先ほどもおっしゃったように、今、宮ノ元地区にハウス団地をつくっておりますけれども、いかに障がい者が働きやすい環境をつくってやるのかというのが大きな課題になってこようかと思っておりますので、そこら辺の環境を整えば、当然雇用というのは生まれてくるのかなと思っております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

諸井義人議員。

○3番（諸井義人君）

既にされているところがあるということで、安心をしております。私も時々見るわけですが、近くではたちばな学園さんですかね、あそこら辺りが自分の施設の前にハウスをしたり、久間の田んぼを借りてナスを植えたりなんかされている状況を見ると、ある程度障がい者の方を利用しながら農作業もされているんだなというふうに捉えております。

3番目の今後の対応についてという形で聞いております。嬉野市が幾らか今後もっとも行政として関わっていくためには、どうしても農福連携の中には障がい者に出す労賃というか、収入を幾らか上げてやらないとやる気も起こらないし、持続性も出てこないと思いますので、幾らか補助金等を出してもそこら辺のところができないかなと思いますので、今後の対応についてお伺いをいたします。

○議長（田中政司君）

産業振興部長。

○産業振興部長（中村はるみ君）

お答えいたします。

農福連携をしていく上で非常に課題になるのがそれぞれの障がいの特性に合った対応というのが必要になってくると考えます。その中でも、やはり作業を理解していただいて実際に作業をしていただく場合には、そこに携わる職員も必要になってくるのではないかなというところがあります。賃金に結びつくような作物になるためにはそれも必要なところだと思

ますので、かなり費用面でもかかる部分があるのではないかと思いますので、確かに補助金というの必要なのかなとは思いますが、やはり特産品として販売が大きく伸びれば、その中でも賃金は賄っていけるようになるということで、導入時期には補助金等も考えなければいけないのかなという感じはいたします。

ただ、嬉野市内の事業所の中でも、障がい者の施設ですけれども、販売のほうにも力を入れていらっしゃるしまして、商工会のほうにも販売をしているということで加入していただいております、商工会の補助事業等を活用しながら商品開発につなげていらっしゃるところもあるようです。やはりそういうふうに自立していただくということも必要なのではないかなと考えます。

今後課題はいろいろあると思いますので、その辺まで含めて研究をしていきたいと思えます。

以上です。

○議長（田中政司君）

諸井義人議員。

○3番（諸井義人君）

障がい福祉のまちということで障がい者に優しいまちづくりを掲げておられる嬉野市のことですので、そこら辺については農福連携を含めてどんどん進めていってほしいと思えます。最後に市長そのところについて。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

国では既に農福連携の支援チームの立ち上がりが出て、県のほうもこのほど立ち上がったということでございます。国、県、そして私ども市町も連携して、また、JAなどの農業団体とも連携してこうした農福連携に取り組むスタートアップをぜひ支援をしていくことは必要だと思っております。何を政策の指標とするかということであれば、障がい者の皆さんが生きがいを持っていただく、そしてまた、自立をしていただくということも最終的には考えていきたいと思えますので、いわゆる最低賃金以上の雇用でなっているA型の障がい者の就労ができるような環境をつくっていくことで、官民連携でこうした取組を進めていくことを数値目標に掲げていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

諸井義人議員。

○3番（諸井義人君）

市だけではなく、商工会及びJ A等とも連携をしながら農福連携のほうを進めていってもらいたいと思います。

それでは、次の質問に入ります。教育環境及びI C T教育についてという形で質問を出しております。その中で、教育環境設備のほうをお尋ねいたします。

佐賀県の中でも特に早く整備をされておった嬉野市空調設備です、エアコン関係は佐賀県の中でも3番目ぐらいに整備をされたんじゃないかなと思っております。それで空調設備の使用状況と効果についてお尋ねをいたします。

使用状況については、ここ最近、新型コロナウイルスで非常に換気をしなければいけないという状況があって、どういうふうな使用状況をされているのかということ疑問を思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

○議長（田中政司君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

空調設備の使用状況と効果ということについてお尋ねでございますので、お答えを申し上げますが、嬉野市内では空調設備の運用基準指針というのを定めております。したがって、それに基づいて各学校は工夫を凝らしながら運用をしているところでございます。

特に近年、30度を超える真夏日と申しましょうか、そういう日が年々増加する傾向にございますので、本市では夏休みも1週間早めて授業確保という観点で出てきております。そういうところで空調の使用というのは非常に頻度が高くなってきて、効果も非常に高くなっているところであります。

例えば事務所訪問と合同訪問を、去年は全面的に中止をしましたが、それまでは事務所訪問と合同にしますと、指導をされる先生方が空調が入っていないときは背中に汗びっしょりして、子どもたちも汗をふるふるしながら7月に入った訪問等についてはあってございましたが、いわゆる空調を入れた段階からそういう光景が見られなくなって、非常に授業に集中できる状況が出てきているというところでございます。

そういった意味では、熱中症対策はもちろんでありますけれども、授業の1時間に集中できるというような効果が上がっているところでございます。

以上、お答えにしたいと思ひます。

○議長（田中政司君）

諸井義人議員。

○3番（諸井義人君）

空調の恵まれた環境で子どもたちは授業に精を出しているという形でお伺ひいたしました。

冬場になると換気をするために窓を開けながらエアコンを回さなければいけないかなと思ひますけれども、そういう状況ですかね。

○議長（田中政司君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

冬場と、特に新型コロナウイルスの時代が入ってきましたので、いわゆる空調の仕方については非常に難しい部分があります。学校によっては30分に1度は開けてみるとか、場合によっては5センチ程度通常に対角線上に開けておくとか、学校の教室のつくりによっても違いますので、そういうところは工夫を凝らしながら、特に感染対策、新型コロナウイルスが入ってきました昨年ぐらいからはやっているところでございます。

特に夏場あたりは一斉に入れたらパンクしてしまいますので、時間差を置きながら朝の冷房は入れたりしておりましたので、そういった意味では工夫をしながらという部分が現状にあります。

以上、お答えにしたいと思います。

○議長（田中政司君）

諸井義人議員。

○3番（諸井義人君）

今、教育長が言われたように、新型コロナウイルスがはやってきてから使う環境とか、窓を開けたりしなければいけないということで、非常にその分電気代もかかってくると思うんですよね、以前と比べて。早く収束して窓を締め切った状態で温かさをそのまま保つての状況であればいいんですけれども、5分10分窓を開けると教室はひんやりとなってしまう、それをまた温めるためには物すごく電気代がかかってくると思いますので、財政面としても、子どもたちの健康を保つためにそこら辺の電気料の御検討もよろしくお願ひしたいと思います。

空調設備のことについても一つですけれども、空調設備が嬉野市の教育施設、学校の中にどのくらい設置されているのかなという形で、私もある程度計算をしてみました。嬉野市の教育というところの中に学級数等が書いてあります。普通学級、小学校で78クラス、中学校で32クラスですので、約110クラスが嬉野市の教室という形になります。教室は76平米ぐらいとかなり広い空間となりますので、1台のエアコンではとても無理なので、多分2台以上はついていてというふうに考えると、教室のエアコンだけでも220台以上、それに校長室、事務室、保健室、図書室という以前からついていた教室等を加えますと、それで約40台となりますので、250基以上のエアコンが学校関係だけでついていてというふうに思います。教育委員会それくらいでいいですかね、数的にはそういう考え方でよろしいですか。

○議長（田中政司君）

教育総務課長。

○教育総務課長（武藤清子君）

お答えいたします。

先ほど諸井議員おっしゃった数とあまり変わらないんですけれども、それに加えて特別教室に小学校と中学校を合わせて約80ぐらいありますので、300を超える台数が設置されているものと思います。

○議長（田中政司君）

諸井義人議員。

○3番（諸井義人君）

今、課長がおっしゃられたように、約300台以上のエアコンが設置されているという形になります。学校関係のエアコンは家庭のエアコンとはちょっと違って、100ボルト対応じゃなくて200ボルト対応でされておりますので、幾らか一般の家庭よりもお値段的には高くなるかと思っておりますので、300台掛けるの1台50万円と考えたら物すごい金額になって、今まで嬉野市も物すごい金額をつぎ込んで子どもたちのためにやってくれているんだなというふうに思っております。

それで、2番目の質問になってきますけれども、空調設備の長寿命化、長くもたせるためにはやっぱり日頃の点検、清掃等が必要になってきます。私も学校に勤務していたときには、私は意外と機械、そういう設備をいじるのは好きだったので、用務員さんと協力をして高いところのエアコンのネットを取り出して掃除をしたりいろいろやっておりましたけれども、最近学校関係を見てもみると、男性の数が少なくなったという形もありますし、用務員さん等に危険なところの作業をさせにくいというふうな状況がありまして、できるだけ業者に頼んだほうがいいのではないかというふうには私は思っているところですがけれども、現在の空調設備の清掃及び点検は嬉野市としてはどういうふうにされておるか、お尋ねをいたします。

○議長（田中政司君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

嬉野市内の学校の空調設備の清掃と定期検査ということでお答えをしたいと思いますが、今、諸井議員が発言されましたような状態が、どちらかというとも継続している現状であります。

各学校は使用する前に、いわゆる時期の前ですけれども、ちょうど事務職員の先生とか管理職の先生とか用務員さんあたりを使って、それぞれフィルターの掃除等は各学校でやっていらっしゃるのが大半であります。

しかし、一部はいわゆるほかの予算を使って清掃をお願いしている部分もありますけれども、完全に定期検査用の経費というふうなことではまだ含めておられない状況でございます。

したがって、安全点検でございますので、項目を上げさせてもらおうと、機器の異常音であるとか、さび具合であるとか、あるいは腐食の状況、そういったところを目視あたりで主に

やっているのが現状でございますので、今後古くもなりますけれども、そういった意味ではたくさんの台数が入っておりますので、そういったところは今後検討をしていく必要があるのかなというふうに思っているところでございます。

現状としてはそういった形で、学校現場の職員が何らかの形で関わって点検をしているという状況でございます。

以上、お答えにしたいと思います。

○議長（田中政司君）

諸井義人議員。

○3番（諸井義人君）

今、教育長が言われたように、以前とあまり変わっていない、学校現場の職員で清掃点検等を行っているということでしたけれども、教育現場はそうですけれども、市の施設もかなり、この庁舎も含めていろんな施設がありますけれども、そこら辺の点検、清掃等はどういうふうにされているか、財政課はないけれども、誰かお答えいただければと思います。

○議長（田中政司君）

行政経営部長。

○行政経営部長（永江松吾君）

お答えいたします。

市が所有しています庁舎とか大規模な施設に関しましては、空調関係については業者による点検を行ってっております。

○議長（田中政司君）

諸井義人議員。

○3番（諸井義人君）

市の施設については業者委託をしておるということです。学校関係は300もある、それも高いところについているのがほとんどです。そういうところを自分たちの手でやっておるわけですけれども、やっぱり長寿命化、長く設備を、空調、エアコン等をもたせるためには専門業者による点検整備等が必要ではないかなと私は考えております。

今後、教育施設においても専門業者の点検整備等の要望を教育委員会もしていただいて、そういうふうな手当てをしていただくことも必要かなと思っております。教育長そのことについてひとつお願いいたします。

○議長（田中政司君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

点検業務の経費を要望しろという指示でございますので、教育予算内の総枠もでございます。フレーム予算等もでございますので、そういったところを考慮しながら首長部局にも御相談申

し上げながら、できるだけ職員が負担にならないような形で進めていきたいというふうに思っています。

以上、お答えにしたいと思います。

○議長（田中政司君）

諸井義人議員。

○3番（諸井義人君）

職員の安全性の面からも専門業者への委託が必要ではないかなと私は思っておりますので、市長部局のほうでも幾らか検討をお願いしたいと思っております。

それでは、次の3番目ですけれども、LED照明の普及についてどのように学校現場はなっているかという形で質問いたしておりますので、お答えをお願いいたします。

○議長（田中政司君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

LED照明の普及についてお尋ねでございますので、お答えを申し上げたいと思いますが、普通教室、保健室、職員室については全ての学校でLED照明に交換をいたしております。

また、体育館や特別教室のLED照明の場合は、学校によって若干異なっておりますので、普及率で言えば70%から、完全になっている、100%になっているところもございます。

ちなみに、五町田小、塩田小、塩田中はLEDが済んでおります。ただ、大野原小中、吉田中学校以外の学校は体育館も全てLED済みの状況です。

以上、お答えにしたいと思います。

○議長（田中政司君）

諸井義人議員。

○3番（諸井義人君）

意外とLED化が進んでいるなということで安心しました。

LED化すると、私も学校にいたとき、電球の取替えは大変なんですよね、蛍光灯は年間、私が鹿島西部中学校にいるときは500本から700本ぐらい蛍光灯の取替えを事務員さん等に頼んでやっておりました。もう日々の朝のうちに蛍光灯取替えが非常に大変で、養護の先生におかれましては照度検査というのが毎年行われておまして、ちょっと教室が暗いですよ、どうにか電球を増設してもらえないでしょうかというような現状でしたけれども、LEDの蛍光灯等がはやってきたおかげで非常に教室も明るくなっているんじゃないかなと思います。体育館等の水銀灯に類するLEDも出ておりますので、そこら辺も随時交換をできたらなと思います。

この議場もそうなんですけれども、一回消えたら5分ぐらい次のときに使えないわけですね。LEDにすると消してもすぐぱっとつくような形になりますので、学校だけではなく

て、市の施設等もLED化をして、電力も少なく使うし、維持的にも長く使えるというふうになっておりますので、LED化は必要かなと思いますので、市全体を含めてのLED化を進めてほしいと思っております。それは要望としておきます。

最後、GIGAスクール構想におけるICT機器利活用についてお伺いをいたします。

嬉野市の教育、教育長はいつもこれを出して、自分たちは嬉野市の教育をやっておるんだという形で私たちに示していただくわけですけれども、この中においても、重点事項の4番目として、社会の変化に対応した教育の推進ということを掲げておられまして、その具体的施策としては、GIGAスクール構想に基づくオンライン教育の研究という形で上げておられます。

昨年度よりGIGAスクール構想におけるパソコンの設備を各学校1人1台当たりという形で、今年度には入っておるかと思っておりますけど、どのような利活用になっているか、お伺いいたします。

○議長（田中政司君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

GIGAスクール構想によるICT教育の利活用についてということでお尋ねでございますので、嬉野市内の現状を御報告申し上げたいと思います。

嬉野市内の学校では、令和2年度、前年度ですが、小学校4年生以上に1人1台入れました。そして、本年の11月末までに小学校1年生から3年生までに入れることができ、1人1台制度がタブレット端末が届いているところでございます。

もちろん、今年度各学校で教職員向けの研修会を2回ほど行っておりますが、端末の活用が徐々に浸透してきております。各学校や各教科でGoogle Classroomを開設して資料の配布、回収、アンケートや小テストの実施、意見や情報の共有などに使われております。

昨年は学校訪問等がございましたので、今年市教委訪問で訪問して授業を見ていきますと、授業の風景がごろっとおととしまでとは違っております。

これまではどちらかというと、黒板があって、その横に電子黒板があっただけでございましたが、それに加えてタブレットがあります。この慣れたところの子どもさんは、早いところの子どもさんは、私どもが筆箱を机の中に入れていたような状態でタブレットをずっと入れて、必要なときにペンケースといいたましようか、筆箱をぱっと出すような感じでタブレットを広げてやるというような形で、そういった使い方もしておりまして、非常に授業の風景、光景といいたましようか、そういうのが変わってまいりました。具体的などころでそういうところがあります。

それに、五町田小学校でタブレットを使ったオンライン授業がありましたので、長崎の原爆資料館と直でつないだオンライン授業があったわけです。したがって、資料館に行かなく

て、向こうで語り部の方が話をされて、そしてこちらで聞くと、質問をしたらお答えをいただくというふうなこともありましたので、そういったこともあります。

それから、体育大会とか合唱コンクールあたりをZoomで家庭に配信をするというふうなところもありますので、この一年で随分授業の風景というのは変わってきたなど、いわゆるこれまでは黒板とチョークがあれば授業が成立するという時代は終わったなというふうな気がしております。

そういったことで、嬉野市内の校長会では、一応市内の小・中学校はICT推進に係る研究部会を立ち上げておりますので、そこを中心にして市内の教職員の研修等に使っているところがございます。

市としても、いわゆる推進計画に係るスケジュールの様子を見ながら今つくりつつあるんです。そして、新年度になりましたら、来年度に向けてそのスケジュールを提示して、よその市町と変わらないような形で、後れを取らないような形で進めていこうというふうに思っているところがございますので、今後ともいろんな部分でGIGAスクールについては出てくる課題が多くあります。使用料の問題とかインターネットがつながりにくい部分の問題とか出てまいりますので、そういったことも頭に入れながら、いわゆる校長会における部分にある研修会を中心にしてスケジュールを示しながら取組を進めてまいりたいというふうに考えております。

以上、お答えにしたいと思えます。

○議長（田中政司君）

諸井義人議員。

○3番（諸井義人君）

今、教育長から以前の学校風景とはかなり違ってきて、最近はICT機器の活用が非常に進んでいるんだということをお伺いいたしました。

今の子どもたちはもう産まれたときからお父さんやお母さんがスマホをいじっていますので、小学校1年生、2年生になると自分たちでもかなりお父さん、お母さんのスマホを使いこなします。しかし、それとは同時に、タブレットも生まれたときから家のほうにあるところはありますので、かなり進んでおります。子どもたちに、あなたたちは帰ってから何をしているのと言ったら、まずもって、宿題をやっていますという子はほとんどいなくて、ユーチューブを帰ってから見ます、ゲームをしますと、そういうふうな子どもたちが非常にたくさんいるわけです。もう少し宿題を先にするとか、読書をするとかということをしてもらったら非常に助かるなと思えますけれども、最近の子どもたちは大人たちよりも進んで上手に使いこなすような時期になっております。

それについていける先生が逆に困っているところもあるんじゃないかなと思います。先生方の研修制度というかな、先ほど少しだけ述べられましたけれども、年間当たりどのくらい

I C T教育に関する研修をされているのかというのが幾らか分かれば、具体的に教えてほしいと思います。

○議長（田中政司君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

教職員の研修につきましては、業者を呼んで本年度2回は行っております。それと同時に、嬉野市では情報教育支援員が2名でありましたけれども、途中から募集を増やして3名体制になりましたので、その情報教育支援員の方を具体的に日割りして回しておりますので、今のところは何とかよそ以上の部分が行っているところであります。

特に昨日おとといでしょうか、金曜日当たりに情報が入ってきたのは、タブレットを持たせて帰してある学校があります。そして、学校評価をいわゆる家庭で親子でタブレットで入れてもらうというのを、タブレット持ち帰りの様子を、木曜日に持ち帰られております。そして、今日学校にまた持ってきてもらうということで、その間に家庭で学校評価についての保護者と子どもとのアンケートを出してもらうということで、金曜日の夕方確認をしたところでは、80%の方が保護者と同伴で答えていらっしゃったということですので、多分今日は100%まで行っているんじゃないかと思えますけれども、今朝確認はしておりませんが、そういった学校評価等についても幅広く利用ができているなというようなことでございますので、一様にはいかななくても、それぞれチャレンジをした部分をG I G Aスクール部会あたりに提案をして、そして共有しながら広めていこうというようなことで思っておりますので、幾らか凹凸はここ1年ぐらひはあると思えます。そういったものを見ながらI C T利活用についてのスケジュールも今組替えをしておりますので、そういう中で生かしながら取組をしていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（田中政司君）

諸井義人議員。

○3番（諸井義人君）

I C T機器については、嬉野市としても数億円かけて投入をしておりますので、大いに活用していただいて、今後の社会になじむような子どもたちを育ててほしいと思っております。

最後に市長お尋ねいたします。嬉野市のI C T関係、子どもたちだけでなく親さんたちを含めてどういうふうな状況に持っていこうと思っておられるのかをお尋ねして、最後の質問にしたいと思います。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

G I G Aスクール構想が前倒しを受けたということと、折しもそこに新型コロナウイルス対策補助金がかかりまとまって嬉野市に来たというところもございましたので、今半導体不足でパソコンとかの調達が可能になったりとか、価格が上がってくるという、その前に全児童・生徒に1人1台を実現できたというのは大きな成果だったと思っております。

先行してできたというその強みを今後生かしていく必要があるというふうに思っておりますので、私自身の課題意識としても、やはり今後の激動の時代を生きていくには生きた英語であったりとか、また理科教育が重要だというふうに思っております。生きた英語ではこうした1人1台の環境を生かしてオンライン英会話の導入を図ることも教育委員会は今進めていただいておりますし、また、理科教育についても、今ユーチューブとか、そういうのも子どもたちは大好きですので、ユーチューブのやってみた的な乗りのそういった理科実験で興味を引くような理科嫌いの子どもの減らすような取組、いろいろ官民連携で考える選択肢が広がったというふうに思っておりますので、この1人1台環境をしっかりと次の時代の教育のバージョンアップにつなげていきたいと思っております。

また、家庭におきましては、家庭学習の中で必ずしもW i - F i環境が御家庭にないところもございます。そういったところも含めてルーターの貸し出し、もしくはある程度集中したフリーW i - F iスポットを市内全域の中で集中的に投資をしていくということも考えながら、こうしたこれからの通信環境の充実、それから親御さんの意識の向上も含めて、PTAの集まりであったりとか、そういったところでも研修等も行っていきたい、そのように考えております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

諸井義人議員。

○3番（諸井義人君）

市を挙げてそういうふうな環境整備もお願いしたいと思います。私からのお願いとしては、5Gを早めに嬉野市も引けたらなと思っております。

これで、私の1期4年の最後の質問といたします。ありがとうございました。

○議長（田中政司君）

これで諸井義人議員の一般質問を終わります。

一般質問の議事の途中ですが、ここで13時まで休憩いたします。

午前11時48分 休憩

午後1時 再開

○議長（田中政司君）

再開します。

一般質問を続けます。

議席番号14番、芦塚典子議員の発言を許可いたします。芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

皆さん、こんにちは。議席番号14番、芦塚典子です。ただいま議長の許可をいただきましたので、一般質問をさせていただきます。午後からは私1人の登壇でありますので、フルタイムを活用させていただいて十分な協議をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

まず、今回は4項目についてお尋ねいたします。

第1は、教育政策について、2項目は、農業政策について、次に、道路整備について、災害復旧についてお尋ねいたします。教育政策については5項目、農業政策については3項目、道路整備については1件、それと、災害復旧について、8月豪雨災害の復旧について2件お伺いいたします。

それではまず、教育政策についてお伺いいたします。

質問の要旨1番として、今後の嬉野市の教育政策について市長の見解をお伺いいたします。

以下の質問並びに再質問は質問席にてお伺いいたします。

以上、よろしくお願いいたします。

○議長（田中政司君）

ただいまの質問に対して答弁を求めます。市長。

○市長（村上大祐君）

それでは、芦塚典子議員の質問にお答えをしたいと思います。

今後の市の教育政策について、私自身の見解、そして、ビジョンについてのお尋ねだと理解をしております。

教育自体は、私、次世代への人づくりという観点から最重要課題であるという認識の下で、教育部局とも連携を取りながらこれまでも教育施策を進めてまいりました。

今後についてでございますけれども、私自身の課題意識として、先ほど諸井義人議員のGIGAスクールの質問の中でもお話をさせていただきましたけれども、これからの激動の時代を生き抜くには、これは、自分で考え、自分で発信する力を身につける必要があるという観点から、英語力、そしてまた、理科教育の充実というものが非常に重要になってくるのではないかと考えております。

そういった意味では、この1人1台のタブレットパソコンが、今、嬉野市、佐賀県、全国でも早く実現をしているという環境的なアドバンテージを生かしながら、オンラインでの英会話を行うことで生きた英語を身につけるきっかけをつくっていったり、また今、ユーチューブ等々でも子どもたちが親しんでいるような、やってみたい、興味、関心を誘うような、子どもたちの興味の引くような理科実験、また自然観察等の、こういった官民連携での

教育プログラムの充実などを図ってまいりたいと思っております。

こうした延長線上に嬉野の子どもたちが夢をかなえる力を身につけるといことが大事だと思っております。嬉野で学び、そして、嬉野を愛し育つことで、そして、最終的には18歳を過ぎて、嬉野の中で、嬉野で働きながら、自分の夢を実現できるような環境づくり、それが理想だと思っておりますし、こうした進学、また、そういった就職等で嬉野を離れたとしても、将来的に嬉野に戻ってきて嬉野で夢の完成を実現する、そういったふるさと教育にも力を入れてまいりたい、そのように思っております。

るる申し上げれば教育論だけでこの90分、それこそフルタイムを使ってしまうと思いますので、またこれをやり取りしながら深めてまいりたいと思っております。

以上、芦塚典子議員の質問に対するお答えとさせていただきますと思います。

○議長（田中政司君）

芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

ありがとうございました。市長の今後の教育政策についてお伺いいたしました。

G I G Aスクールの推進、そして今後は、教育においては、「教育」ではなくて、自分で考え、自分で発信する、そして第一には、オンライン・イングリッシュ・カンパセッションですね、世界に通用するような子どもたちを育てるといような、そして、理科並びに体験学習とか、官民連携で行うと。そして、一番大事なことをおっしゃっていただいたのは、嬉野で働きながら嬉野でこの活動をしていただくといような教育政策を市長からお伺いいたしました。本当に大変な理想並びに目標を掲げていただきましたけど、この中で次の1期で、4年で、一番実現される優先順位といいますか、どれだけのことを——これはみんなおっしゃっていただいたんですけど、この中で優先していただく項目というのは市長にはございますでしょうか、よろしくお願ひします。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

先ほど登壇して述べさせていただいたことが最優先事項として取り組む、G I G Aスクールの環境を活用した理科教育、英語教育の充実であったりとか、また、郷土愛を育む教育というものを最優先事項にしていく。その具体的な政策として、英語、理科教育は割と具体的な政策を述べさせていただきましたがけれども、郷土愛を育む教育としては、今既に続けております校長先生の知恵袋等の授業でこの学校を愛する教育に取り組んでいただいておりますけど、そういったプログラムの充実の支援を、また私どもも学校の裁量権を重視しながら予算配分も進めてまいりたいというふうに考えておるところでございます。

長期的な視点に立てば、学校の施設の改築、また、新築も含めて検討をしなくてはならないようなこともございますので、そういったところも長期の財政運営計画についても早々に着手をしていく必要があるのかなというふうに考えておるところでございます。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

どうもありがとうございました。本当に重点目標としては、いろんな教育政策の中で子どもたちに郷土愛を育むような教育、そして、今後の長期的、例えば、GIGAスクールを念頭に置いてと思いますけど、教育環境、長期的に整えていくというような環境整備というのを考えておられるので、実現が可能になりますように、また、長期でなくて短期で行っていただきたいという希望があります。

それでは、2番目の市内小・中学校の全国学力テスト2021、あれは全国学力・学習状況調査というのが今年度5月27日に行われておりますけど、小学6年生、中学3年生ともに全国平均より、市内の小学6年生、中学3年生の状況はどのような状況でしょうか、お伺いいたします。

○議長（田中政司君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

市内の小・中学校の全国学力テスト2021の正答率についてお尋ねでございますので、お答えをしたいと思いますけれども、去る5月27日に実施されました学習状況調査でございますけれども、嬉野市内の小学6年生と中学3年生が対象になっております。

小学6年生の国語が全国平均を上回りましたが、小学6年生の算数、中学3年生の国語、数学は全国平均を下回りました。

佐賀県内の正答率と比較いたしました。そこもちょっと申し上げますと、小学6年生の算数と中学3年生の国語が僅か下回っていましたが、ほぼ同等の結果であったというところがございます。

以上、お答えにしたいと思います。

○議長（田中政司君）

芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

すみません、最後の辺がちょっと聞き取れなかったのですが、小学6年生の国語は全国平均より上回っておりますけど、算数は全国平均より下回っていたということと、中学3年生は、国語、数学ともに全国平均以下だったというふうに認識してよろしいでしょうか。

○議長（田中政司君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

議員が申されたように、小学6年生の算数と、中学3年生の国語、数学は平均より下だったということでいいと思います。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

教育長と市長にお伺いいたしますけど、小学6年生の国語は平均より上だったと、算数は下だったと、中学3年生は、国語、数学ともに平均より下だったということなんですけど、原因と今後の学力向上のための教育施策というのはどのように考えていらっしゃいますか。すみません、教育長を先に、市長を後でお願いいたします。（「もう一回お願いします」と呼ぶ者あり）さっき回答していただきました状況ですね、国語とか、小学6年生、中学3年生——中学3年生が平均より下、ただし、小学6年生は国語は平均より上だったと。この状況をどのように把握し、そして、平均より下回っていたら、今後の教育施策改善、学習向上による教育施策というのはどのような施策を考えてあるのか。教育長と市長にお願いいたします。

○議長（田中政司君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

非常に難しい答えなんですけれども、一足飛びに上がるわけじゃございませんで、嬉野市内の学力調査あたりを見ますと、年によって高く出る学年と、いわゆる波があるんですね。そういうのが平均的にずっといけばいいんですけれども、どうしてもこういった波がございます。

そういった意味では、今年度の学年としては波の低いほうの部分の学年に当たるというふうなことで、これまでも、いわゆる波がないような形でずっと平均的に行くような取組を旗振りとしてきていたわけでございますけれども、今年の場合は、いわゆるコロナ禍の中で、いろんな意味で十分じゃない部分があるわけでございます。

家庭内での学習習慣の、いわゆる課題と言いますけれども、課題を出した場合の家庭学習の充実あたりも、やはり不十分な部分がありましたし、それから、マスクをかけている関係で、いわゆる対面授業をしていながらなかなか子どもたちの反応を把握しづらいという部分が去年から続いてきております。そういったこともあって、新型コロナウイルスの影響をやはり全体的には私が考える限りは影響が出ているんじゃないかなというふうなこともあるわ

けですね。

そういった意味で、やはり学校に対する子どもたちの意識といいましょうか、毎日、明日も行くぞということに来ていた部分が、何となく家庭にいながらむんむんとしながらというんでしょうか、そういった意欲の部分にも課題があるというようなことも私自身感じておるところでございます。

そういった意味で、そういうところの部分が複合的に相まって今回のような結果が出たというふうに思っておりますので、最終的には、今度12月1日、2日に佐賀県の学習状況調査をしております。2月中旬にその結果が届く予定になっておりますので、その結果を見て3月までに補充指導をしながら次の学年につなげていきたいというふうに思っておりますので、全国学力・学習状況調査が全てじゃなくて、むしろ12月1日、2日に実施しました佐賀県学習状況調査のほうが主力というふうに、県もそういう意味にも言っておりますし、私どももそういう認識を持って子どもたちの学力向上には取組をしていきたいというふうに思っております。

以上、お答えにしたいと思います。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

嬉野市全体の平均点ですね、先ほども教育長が申し述べたとおり、平均を上回った科目もあれば下回った科目もある。そして、年々の波もあるということは前提でお話をさせていただきますけれども、実は教育長とこれはなかなかちょっと表に公表することはできませんけれども、学校別のデータでも私どもは把握をしております。その中では、やはり比較的きめ細やかな指導ができる小規模校においては平均点が高い傾向にございまして、それは全国平均をかなり上回っているような学校も存在をいたします。

そういったことからいけば、やはり教職員、そしてまた地域、そして、我々も含めてでございますけれども、どれだけ子どもたちに手をかけていくかということがそういった確かな学力につながっているということは間違いないというふうに思っておりますので、そういった考え方の下でこうした関わりを深めていくような教育、また、きめの細かい、そしてまた、子どもたちが教え合うような、そういった関わり方というものに重点を置いた教育プログラムを考えていくことで全体的な底上げを図ってまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

ありがとうございます。教育長のお答えを繰り返しますと、その年の子どもたちによって波があるということ、それと、現在は本当にコロナ禍で平常な教育環境にはないということも認識できます。また、家庭学習においても、それと、マスク着用とか、そういう子どもたちの意識ですね。モチベーションが上がらないというようなのも確かにあったと思います。

それと、市長がおっしゃるように、全国平均より上のデータが出ている学校もあるということですね。それは本当に大事なことじゃないかなと思います。

それで、令和3年度の全国学力・学習状況調査後に令和3年10月5日に佐賀県学力向上対策検証・改善委員会における主な意見というのがちょっと何項目かあったんですけど、2つ紹介しますと、正答数が多い児童・生徒の割合が全国と比較して小さいこと、要するに平均以下の手当てを取ることが重要ではないかと意見が出ています。それと、特に小学生は自分自身でできる、分かる、もう少しでできるかもといった高まりを自分で実感することが難しいので、教師の賞賛、あるいは励まし等の関わりが重要になってくるという意見がありました。

それで、これからもGIGAスクールというのが推進されていきますので、やはり教師の教育方法といいますか、総合的な能力を、教育だけではなくて、今度はそれを導く力というのを、そういうのが必要になってくると思いますので、そういう教師の能力改善、あるいは学習方法の今後の、ちょっとGIGAスクールまで行きますけど、GIGAスクールに対する教育施策、それが今行われている状況はどのような状況でしょうかというのをお聞きしたいと思います。ちょっと言い回しが悪かったですかね。

○議長（田中政司君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

教師の指導力のアップにつながる御意見やなかったのかなと思いますけれども、そういった意味では、嬉野では、いわゆる数年前から嬉野メソッドというふうな形で、メソッドという指導課程を統一しております。というのは、小学校1年生から中学3年まで指導課程は一貫して最初に目標をしっかりつかませると。そして、みんなで協同して、しかも、最後は振り返るという5段階ステップをつくっております、それを各担任が、中学でいくと各教科で取組をしているところでございます。

したがって、子どもたちは職員の異動がありますので、異動があっても指導課程においては、先生が幾ら替わられても学習していく道中は変わらないというふうな嬉野メソッドという提案をして今取組をしているところです。

したがって、黒板に見ると、一番最初にここに本時の目当てというのがピンと来て、そして、学習課題が来て、そして、途中の指導課程が来て最後振り返るというふうな形で黒板の中には収めていくという流れです。そういう形のものを今、小学校はほぼ完全にできつつあ

ります。中学校が今のところ教科によってうまくいっている部分とそうでない部分がありますので、いわゆるそういったところが徹底してくれば、もっと広げますと、武雄、伊万里まで含めた西部地区内の旧市町でそういうところを取り組もうという形でしております。いわゆる人事で、今は伊万里の方が嬉野に来たり、嬉野の方が伊万里に行ったりされますので、先生方が異動されても指導課程は変わらないというふうなことに広めて取組をしているところでございます。それが定着してくると、今おっしゃったような県の言っているような中身等には対応できていくものというふうに思っております。今半ばですので、これからはさらに深めていきたいというふうに思っているところです。

以上、お答えにしたいと思います。

○議長（田中政司君）

芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

いろいろな教育者の施策というのが広域的に行われているというのは重要なことじゃないかなと思っております。

次でしたら、じゃ、すみません、いろいろな教師、あるいは教え方とかいうのがまちまちではなくて、やはり一つの目標、あるいは標準、そういうものを持って教師の教育能力、あるいは導く力、総合的に能力を持てる教育施策というのが必要になってくると思いますけど、そういう面でいろんな施策をお願いいたします。

次、G I G Aスクール構想の取組をお伺いしますが、G I G Aスクール、G I G Aスクールと言いますが、要するに、G I G A——グローバル・イノベーション・ゲートウエー・フォーオール、世界中のみんなに対して改革のゲートウエー——入り口ということだったんです。

それで、G I G Aスクール構想の国の考えというのは、G I G Aスクール構想とは、義務教育を受ける児童・生徒のために1人1台の学習用パソコンと高速ネットワーク環境などを整備する5か年の計画ですということで、その目的は、子どもたち一人一人の個性に合わせる教育の実現でありますということを国のほうは説明しております。

それで、G I G Aスクールの嬉野市の取組は現在どのような状況であるか、お伺いいたします。

○議長（田中政司君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

午前中、諸井議員のほうにもお答えを申し上げましたけれども、令和2年度に小学4年生以上の子どもさん方、それから、本年度に入りまして11月末までに小学校1年から3年までの生徒さん方にタブレット端末を整備したところでございます。

また、先生方の研修についても各学校で行っておりまして、県も教育事務所もタブレットについての研修は行ってきているところでもあります。

したがって、今実態をちょっと調べてみますと、小学校では週に2時間から10時間程度の活用時間をしております。活用内容は、各教科、総合的な学習の時間での調べ学習、ミライシードを活用してのドリル学習、英語のタイピングや他校とのリモート交換、図工で絵を描く対象を写真撮影したり、体育の跳び箱やダンスで投影写真を見て、そして、手が伸びていないとか足が伸びていないとか、そういう部分に活用しているところでもあります。

中学校におきましては、各教科及び総合的な学習の時間で調べ学習をしております。特に中学校では、教科書のQRコードというのがございますので、そこを引き出して解説画面の確認を行ったり、体育の授業あたりでも撮影をして確認をします。それから、英語では、プレゼン資料を作成したり、発音練習のために活用したりというふうなことでしておりまして、無料の学習サイトを授業で活用していく教科もあるようでございます。

市教委といたしましては、やはり午前中にもお話ししましたがけれども、嬉野市教育研究会のGIGAスクール構想部会というのを立ち上げておりますので、その部会に各学校代表者が来ますので、それを持ち帰ってそれぞれ共有をしながらやっていこうというようなことで取組をしているところでございます。

それからそのほかに、出席停止でありました学校があるんですけれども、そこではオンライン授業も実施をしております。

そういう具合に、できることからやっていこうというふうなことで、GIGAスクール初年度といいましょうか、そういった形で現在進めているところでございますので、次年度あたりはやはりそれを参考にしながら、いわゆるGIGAスクールについての活用スケジュールといいましょうか、そういうものをして取組をしていきたいというふうに思います。

もちろんこれからも県教委の研修関係がございますので、それには積極的に参加をさせてもらうようにしていくというふうなことで、せっかく大きな額を入れておりますので、そういった部分でしております。

それから、午前中に諸井議員のところでお答えしました五町田小学校のアンケート集計ですがけれども、133件のうち今日までに122件が来ておりまして、あと10件余りはどうしてだろうかということをおちょっと尋ねてみましたら、いわゆるWi-Fiの環境が整っていないというところも見えてまいりました。

それから、親子で評価をする中で結構時間がかかったんでしょ、バッテリー切れがあったとか、そういうことも新しい課題として出てまいりましたので、実際動かしながら課題が出てくるかと思っておりますので、そういうときに課題解決を図っていくというふうな使いながらの、まずそういう取組が必要ではないかなということを感じております。

以上、お答えにしたいと思っております。

○議長（田中政司君）

芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

詳細な説明ありがとうございます。ハード面の整備においては、小学校1年生から3年生まで今年度で整備してしまうということでもよろしいでしょうか。4年生は元年で今年度は1年生から3年生までパソコンの整備が……（「もう11月までに終わっています」と呼ぶ者あり）終わっているということですね。

それで、週2時間から10時間のパソコンを使った授業が行われているということなんですけど、1つ課題が、多分5G時代がまだまだ追いつかないようで、Wi-Fiが整っていない環境があるということなので、今後は、リモートで授業ができるという状態とか、ルーターを貸し出していただいてリモートで今後のこのコロナ禍とか災害のときに、そういうのは何年度ぐらいに完成を考えていらっしゃいますか。

○議長（田中政司君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

基本は、私は対面授業をしたいと思っています。というのはやはり教育というのは5感でやったほうが一番いいと思いますので、いわゆる有事のときにだけと言え、今言われたオンラインとかでやっていくのが一番いいのかなと。

ただ、先日ある市内の研修会に行きましたら、携帯のAIを使って算数の計算が指導されていたんですよ。それをAIを使って音声で入力したら、式と答えまでぱっと出るんですね。例えば、1割る0.5は。そのとき出されたのが、2メートルのひもがあります。4人で分けたら何十センチになりますかと。そういうのを携帯のAIで言えば、式も答えも出してくれるんですね。したがって、そういうときに携帯は使うんじゃないんですけれども、AIが進歩してくるものですから、そういう中で果たして学校はどういう形でその式の指導をしていくのかというふうなことを、この前、本当先週でしたけれども、再確認をしたところであります。

したがって、いろんなのは、これからAIが出てまいりますので、そういうことからすれば、集積をする能力といいましょうか、そういうのがこれからの子どもたちの中では必要ではないかと思えます。学校現場でのGIGAスクールの狙いとするところと、それから、大人になってから生きていくための部分と融合しながら考えていかなくちゃいけないなど。

ただ、AIとかインターネットでいく中では、やはりコミュニケーションを取るのには学校だけしかできないんじゃないかなというような気がするわけですね。したがって、やはり新型コロナウイルスが収まってくれば、対面授業で、やはり5感で教育をしていくというのが私は一番ベストではないかなということを思っているところであります。

以上、お答えにしたいと思います。

○議長（田中政司君）

芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

ありがとうございます。AIを使つての授業とおっしゃいましたが、今後は無料アプリでいろんな学習方法ができると思いますので、本当に教師の方たちがどのような学習方法、アプリをどのように持つていくかとか、そういうのがすごく大事になる方法だと思います。

それで、次お伺いしたいんですけど、ソフト面の整備はどのようにされているか。ソフト面の整備というか、人材の整備はどのようにこの嬉野市の小・中学校では行われているかというのを伺いたします。

○議長（田中政司君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

ICTのソフト面とハード面でいいんですかね。（「ハード面はいいです。ソフト面だけ」と呼ぶ者あり）ソフト面だけですね。

ソフト面についてお答えをしたいと思いますけれども、学校ICT機器はいろいろございまして、例えば、この前から話をしておりますように、パソコン教室もありますし、電子黒板、タブレット端末、校内LAN関係もあります。学校用パソコンなども、実は学校の中にはいろいろございまして、その中でやはりGIGAスクール構想に基づくオンラインの学習のための環境整備につきましては、今年度1台ずつそろえましたので、そこで何とかできるんですが、例えば、無線LANをしたものの、やっぱり不具合が生じてきたりするのも一応あるようでございますので、学校の中で、ここは聞こえるけれども、つながらないといったところも今後もう少し丁寧にしていかなくちゃいけないんじゃないかと思ひます。

それから、電子黒板が平成27年度で全部入っておりますので、もう5年経過をして、いわゆる電子黒板の機能というんでしょうか、非常に落ちかけております。したがって、これも計画的に入れていかなくてはならないんじゃないかと思ひますので、今後入替えの部分についての中期財政計画あたりをお願いしているところでございます。

そういったことで、今後やはりそういったものが出てくると思ひます。そして、子どもたちに入れている1人1台制が5年後には今度また入ってくる可能性もありますので、5年後に切り替えるときの予算をどうするかというふうなことも頭に入れながら次のステップのことを考えていかなくちゃいけないというふうなことで、いわゆるソフト面の部分を考えているところです。

それからあと、今、紙ベースの教科書でございますけれども、いわゆる電子教科書あたりに変えられるようになっていきますと、今度は教科書は一切持つて帰らなくて、タブレット

端末を持って帰って自分のうちで学習をするということも想定されるわけですので、そこら辺については、国、文部省との関係もございますけれども、そういったところも今後はソフト面としては考えていかざるを得ないんじゃないかなということを考えております。

そういった意味で、先立つものをいかにして予算化していただくかということが非常に頭が痛いところでございます。

以上、お答えにしたいと思います。

○議長（田中政司君）

芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

ありがとうございます。本当に環境整備を全てオーケーにするにはかなり、ちょっと時間かかるし、予算がかかると思います。

それで、今度、ICTの支援員さんの配備は、嬉野市はどれくらいなさっているのか、それをちょっとお伺いいたします。

○議長（田中政司君）

教育部長。

○教育部長（大久保敏郎君）

お答えします。

情報教育支援員さんは前年度までは2名でしたけれども、今年度は1名増員しまして3名配置をしておるところです。

○議長（田中政司君）

芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

3名今年度配備していただいているんですけど、教育研修何とか部会というのを立ち上げであるということなんですけど、そこは何名ぐらいいらっしゃるんでしょうか。

○議長（田中政司君）

教育研修——もう一回はっきり言ってもらっていいですか。

○14番（芦塚典子君） 続

私もよく聞き取れなかったんですけど、教育研修何々部会ということで、教職員の研修をしていると、ちょっとそこが途中で聞き取れなかったのです。

○議長（田中政司君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

お答えをしたいと思いますけれども、ちょうど嬉野市内には11名の校長先生がいらっしゃいますので、その校長先生を部会長にして、例えば、学力向上部会とか、心の教育部会とか

いうのがありますけれども、それに準じて今年からG I G Aスクール構想部会というふうなことを立ち上げているわけです。そして、G I G Aスクールについての情報交換と共有をする部会であります。したがって、各学校ごとにG I G Aスクールのコーディネーターがおりますので、その方にお集まりをいただいて、その学校で取り組んだことを会に持ってきて、情報共有をして、嬉野市内でいい部分は取り入れていこうというふうな形の部会であります。今後も来年度も引き続き行く予定にはしておりますけれども、そういった会であります。

○議長（田中政司君）

芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

G I G Aスクール構想部会ですかね。I C Tに特化した部会でしょうか、それとも、3名とおっしゃったI C T支援員さんと同様な支援をなさっている部会なのか、そこら辺がちょっと分からないんですけど。

それで、隣の武雄市なんですけど、2014年にこういうI C Tの支援員を人員配置してあって、2014年がスマイル学習課というのを設置して支援員が13名いらっしゃいます。現在は新たな学校づくり推進室というのが6名いらっしゃって支援員が16名、計22名いらっしゃいますけど、嬉野市はこういうI C Tの支援員さん、あるいはI C T専門に指導をなさっている支援員さんというのはどれくらいいらっしゃるのか、ちょっとお願いいたします。

○議長（田中政司君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

先ほど部長が答えましたように、3名ですね。当初3名を予定して募集しましたけれども、2名だけしか応募者がなくて、途中から1名手を挙げて応募に関わってきていただきましたので、現在は3名です。したがって、その3名さんを、いわゆる学校ごとに張りつけをして、曜日を決めて、時間を決めて、回して現場で指導をしていただいているというふうなところですね。

お隣のお話が出ましたけれども、10年前から取り組まれて現状に至っておりますので、私のところは1年目でございます。武雄は、1、0がついて10年目でありますので、そういったところはまだまだ今の段階では時間がかかるかと思えます。

したがって、武雄市辺りで研修をされた方も嬉野に来ていただいておりますので、そういうところでは、人事異動等でいただきながらノウハウをもらっていると。逆にこちらから武雄のほうに送って研修をしていただいて、またお持ち帰りいただくということも可能でありますので、そういったことで、今のところはG I G Aスクール関係に関わる情報教育支援員というのは3名ということで展開をしているところでございます。

多いにこしたことはございませんけれども、予算の関係もあって、そういうところで進め

ております。

以上です。

○議長（田中政司君）

芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

武雄市さんは本当に10年前からG I G Aスクールに取り組んでいただいて、嬉野にも武雄市さんに勝るとも劣らないというようながあると思っていましたけど、昨年なくなってしまう。それで、このG I G Aスクール構想5年間にやはり今後の教育——ティーチから、次は指導するという立場の教育になると思います。パソコンが介在しますからね、先生が直接ティーチ——教えるんじゃないで、この使い方をファシリテートする——指導する、こういう教育方法になっていくと思うんです。

それで、やはりそれには先生だけのティーチの能力じゃなくて、ファシリテートの能力が必要になると思うんです。やはりそれにはI C T支援員が本当に3人じゃ先生も十分にいろんなアプリを駆使して子どもたちに最適な教育を施すことは、全ての先生においては無理じゃないかと思います。全ての先生をティーチからファシリテーターにするには、やはりI C T支援員、これの増強、それが必要だと思いますけど、1年度ということで、今度5年間にI C T人材にどのような予算をつぎ込んでいかれるか、ちょっと市長にお伺いいたします。

3名と、武雄市は支援員さんが16名、そして、推進設置というのがあって6名いらっしゃって22名でこのI C T体制をされています。嬉野市のほうはいろんな先生方とか努力してありますけど、I C T専門に支援をしていただくのが3名と、今度あと4か年あります。予算、これをどのように人材を確保していられるか、市長にお願いいたします。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

武雄市とは、学校の数、また、人口規模等全く違いますので、それと同等にとということではなくて、それは、規模に応じた人員配置をしていくのは当然のことだと思っておりますし、また、先ほど最初のほうに述べました、官民連携で教育プログラムを充実していくということになれば、やはりそういった民間側との調整とか、また、そういった企画も含めたところの人員は必要になってくると思っておりますので、そのプロジェクトの進捗に応じて予算の配分、それからまた、人員の配置を進めてまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

私は全て条件を見ないで隣の市のようにしていただきとは申ししておりません。嬉野市なりの教育政策をお願いしますというお願いしているところです。

次に、いつも村上市長が当初からおっしゃっているのは、やはり官民連携で一体感のある教育、それを施すとおっしゃっているんですけど、実は私は武雄のICTの推進に嬉野市として匹敵するものは、子ども学校塾でなかったかと思います。

今回は、この前に時間がなくて教育関係は今回に延ばさせていただきましたけど、子ども学校塾関係はそのときはこのあれに入れるあれじゃなかったんですけど、やっぱり保護者の方、それから、おじいちゃん、おばあちゃんから学校塾の要望がかなりありますので、学校塾の再開はあると聞いたんだけど、どうなっているのかという意見がありましたので、ここに入れさせていただきました。

ところで、子ども学校塾は再開があるのかどうか、お伺いいたします。

○議長（田中政司君）

教育長。

○教育長（杉崎士郎君）

子ども学校塾についてお尋ねでございますので、お答えをしたいと思いますけれども、いわゆる学校塾をここ2年ほど休ませて休止をしております。それは、教育委員会内の予算の関係上、いわゆるコロナ禍がかなり進んでまいりましたので、いわゆる子どもたちの安全で命を預かっている学校でございますので、どっちを優先すべきかというときに、やはり学校塾よりもスクールサポーターあたりを入れていただいて、そして、先生方の子どもと接する時間を増やしてもらおうというふうなことで昨年からは休止しているところでございます。フレーム予算等もありまして、そういったところがあって今のところは休止をしておりますけれども、今後そういう改善の兆しが見えていけば、ぜひ今度は復活をしていきたいなというふうな気持ちを持っております。

予算が伴うものでありますので、教育委員会直営方式あたりでできないかなというふうなことを改めて感じているところでございますので、これからまだまだ新型コロナウイルス対策の部分で必要な部分と両方というとなかなか難しいかも分かりませんが、どうしてもそういった予算に関わる部分がちょっとございますので、市長部局に御相談しながら取組を復活させてもらえれば、狙いとすることは2本立ちできればなおいいと思っておりますけれども、何せ1,000万円を超えるお金がかかりますので、ですから、簡単じゃないなというふうに思っているところでございます。気持ちとしては復活できればなという気持ちは十分持っております。

そういった意味で、私も保護者の皆さんからそういう話をお聞きする機会も度々あります。いつ復活すつとですかという話も聞くことはありますけれども、予算の兼ね合い上、新型コ

コロナウイルス対策が優先をしておりますからというようなことでお答えをしておりますので、そういったことで御理解いただければと思います。

以上です。

○議長（田中政司君）

芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

ありがとうございます。予算が厳しいということです。

ただ、私は本当にICTを使っても、いろんな教育においても、人材、これは人材が一番必要だと思えます。

私も25年前にパソコンで子どもたちに教えました。その子どもたちは25年前ですから、今35歳になっています。先月はアメリカで自分の研究を発表しました。1人の子どもは大きな電機メーカーですけど、本社に帰りました。もう一人はプログラマーになっています。もちろん嬉野市にいる子どもたちもいます。パソコンで勉強するということは、可能性は本当に100プラスアルファなんです。ただ、これを理解させるには人材なんです、教育者並びにファシリテーターなんです。それを言いたいんですよ。3名じゃ本当に——22名いらっしゃる、それは予算が違う、規模が違うとおっしゃるけど、やはり人材です。それで、私は市長が言っているように官民連携で日本一を目指す。

そして、市長は当初、4年前、ICTや日本最高峰の教育者とコラボで教育ナンバーワンを目指すとおっしゃっておる、教育ナンバーワン、日本最高峰の教育者とコラボでとおっしゃっているんですけど、私は民間の教育者とコラボで、このように4年に1回の教育者の教育ではなくて、私は身近にいる教育者の本当に温かい子どもたちにこれもできるかもしれないよと言えるような教育者の教育を私は選んでいただいたと思うんですけど、これがあつという間になくなってすごく残念だと思っております。

それで、やっぱり本当におじいちゃん、おばあちゃんとか、これを本当に私も尋ねられますので、教育政策の最後の中に子ども学校塾の再開というのを入れさせていただきました。

そういう気があればということなんですけど、令和2年度の予算59億円、拡大予算ですよ。48.何%の拡大予算です。

その中で、玄海町はこういうのに1億4,000万円入れています。嬉野市は1,000万円足らずでした。それで、玄海町は1億4,000万円ですね、あそこは本当に交付金が高いから比較にならないんですけど、令和2年のうちの予算は59億円も拡大予算です。その中の1億円でもないんです、1,000万円なんですよ。そして、子どもたちの教育に携わることができるんです。そういうのを勘案していただければ、私は1,000万円足らずで子どもたちが本当に能力が発揮できるような教育ができると思っております。

教育関係の質問はこれで終わらせていただきます。そういうことで、気があれだったら、

予算と照らし合わせて再開をいたしますということですね。そういうことでお受けいたしました。

次は、農業政策にお伺いいたします。

お茶に関する補助制度で今年度のお茶に対する交付額はどれくらいでしょうか、お伺いいたします。

○議長（田中政司君）

茶業振興課長。

○茶業振興課長（森 尚広君）

お答えいたします。

お茶に関する補助制度の今年度の全体交付額は、現時点ではございますけれども、概算で3,430万3,000円ということでございます。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

お茶に対する補助金での今年度の交付額は3,430万円ということですね。それで、どのように今、この交付金が配分されたか、ちょっとお伺いいたします。

○議長（田中政司君）

茶業振興課長。

○茶業振興課長（森 尚広君）

お答えいたします。

今答弁しましたのは、現時点での概算でございますので、今年度の当初予算では4,400万円ほど予算が計上されておりました、8月の豪雨によりまして、9月の定例会、そして、11月の臨時議会で7,830万円補正予算を計上しております。トータルで1億2,200万円ついておりますけれども、御質問では、現時点での今年度の交付額ということでございましたので、年度途中ではありますけれども、概算ということで3,462万3,000円とお答えしたところでございます。

支払いということでございますけれども、今現時点での交付については団体、申請者からの申請主義となっておりますので、その分については概算でお支払いしているということでございます。残りの分につきましては、制度上、年度末にお支払いするという形でございます。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

いわゆる主な野菜ですね。ネギ、タマネギ、キュウリ、イチゴ等、これの産出額をお伺いして、これに対する交付金はあるのか、お伺いいたします。交付金、いわゆる野菜と言われるもの、ネギ、タマネギ、イチゴ、キュウリ、大豆等の産出額と、これに対する交付金はあるのか、お伺いいたします。

○議長（田中政司君）

農業政策課長。

○農業政策課長（井上 章君）

お答えをいたします。

まず野菜、大豆の産出額ということでございます。

国が公表しております直近の令和元年の市町村別農業産出額推計で見ますと、野菜全体で4億6,000万円となっております。これは嬉野市全体です。このうち金額の高いものから申しますと、キュウリが1億4,000万円、イチゴとネギがそれぞれ1億円、タマネギとトマトがそれぞれ2,000万円という順になっております。また、大豆につきましては2,000万円ということで推計が出されております。

それから、野菜についての交付金があるかということでございますけれども、基本的には交付金はありません。ただ、水田を活用されての転作された場合につきましては、水田活用の転作交付金ということで、10アール当たりの単価を支払いしているところでございます。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

主な野菜が、令和元年度、全体で4億6,000万円ということですね。それで、これに対する交付金はないということですね。

ただ、国の水田活用の直接支払交付金というのの一つである産地交付金というのがありますよね、産地交付金でお支払いされていると。産地交付金でこの活用をして高収益野菜作物、タマネギ、ネギ、イチゴの助成は交付金を活用してどのくらいなされたのか、お願いします。

○議長（田中政司君）

農業政策課長。

○農業政策課長（井上 章君）

交付金につきましては、県のほうが各市町のほうに配分をされます。その配分が今年度につきましてはまだ決まっておきませんので、ちょっと今、これまでは年度末に配分するようにはしておりますので、金額的には現在のところ確認できておりません。

以上です。

○議長（田中政司君）

芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

お茶に対する補助制度で交付金が、これは今年度やったですかね、トータルで1億2,200万円、新型コロナウイルス感染症緊急対策事業では、令和2年度では一番茶の中切り費用に500万円、うれしの茶交流館に2,600万円、こういうのが交付金で使われております。今年度は1億2,200万円。

野菜も4億6,000万円上がっているわけですよ。最近のお茶とあまり変わらないですね。

それで、水田活用の直接支払交付金という産地交付金があるんですけど、令和3年度嬉野市農業再生協議会水田収益力強化ビジョンというのができていますよ。それで、まだ県から来ていないと、もう年度末になりますよ、どういうことですか。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

芦塚議員がどういうことですかとお怒りになられているのは、恐らくお茶が補助金が充実していて、その他の野菜が充実していないというふうにおっしゃりたいと思うんですけど、それは全くの誤りでございます。

やはりこうしたほかの野菜類に関しましても、新規の就農者のこうしたハウス団地もはじめとするような投資というのも行っておりまして、また、こうした販売促進についても、コロナ禍で困っていらっしゃる時にも直売所の行き場を失った野菜についても、パック詰め販売をしたりとか、様々行っておりまして。特に今回は災害を受けてという部分も多いところもございまして、お茶に関してはかなりそういった国、県の、こういった助成金も込みでの額でのこうした提示をしておりますので、一概に比較するというのも、それはアンフェアな議論ではないかなというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

ありがとうございます。最近コロナ禍でいろんな栽培に対する需要がなかったり、本当に大変な事業だと思います。

ただ、この前、臨時交付金が来ましたが、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金ですね、お茶の生産向上対策事業に500万円、それから一番茶のこれを入れてですね、チャオシルが2,600万円ですけど、さっき国、県から来ていると、それがお茶に行っている

ので、お茶だけじゃないとおっしゃったんですけど、嬉野市独自の補助金なんですけど、さが園芸生産888億円推進事業、これは令和2年の分です、今年度の中には入っていません。1,959万円、約2,000万円、これが荒茶加工用機械長寿命化、荒茶加工用機械購入費、省力防除機械購入費、乗用中刈機購入費、そして、うれしの茶需要拡大対策事業375万円、うれしの茶消費拡大キャンペーン369万9,000円、うれしの茶産地振興支援事業300万円、うれしの茶優良品種導入事業28万2,000円、茶園基盤整備推進事業25万円、嬉野釜炒茶協議会17万5,000円、嬉野銘茶会300千円、うれしの茶ブランド確立対策事業30万7,000円、うれしの紅茶振興協議会20万円、茶業研修費が約3,000万円ぐらい機械購入費に充てられています。

茶業関係は約20%前年比増です。このタマネギ、ネギ——野菜ですね、これには交付金がありませんでした。県からの産地交付金、これはまだ来ていないと。だから、お茶だけにするとかは言っていないんです。お茶もありますけど、塩田の農業は、米麦、大豆、ネギ、タマネギ、イチゴ、一生懸命なさっているんですよ。それで、困ってあります。そこも水につかってあります。そして、イチゴも蜂が今いないので、産廃になりましたと困ってあるんですよ。それでも一生懸命なさっています。どうしてこういうせめてもの産地交付金、これを県に助成申請できなかつたのか、申請できるように農業者を指導できなかつたのか。そこら辺があまりにも公平性に欠けるんじゃないかと。あまり生産量は変わっていないです。そしてこれは、ブランドを立ち上げればもっと、東京に行けば塩田のイチゴがあるんですよ。ただ、福岡に行けば、福岡のあまおう、東京に行ったら200円違うんですよ、1,000円と800円です。これは何の違いだと思いますか。販売促進力、宣伝力の違いです。甘さじゃないんですよ。そういう支援を、本当に均衡を、塩田も農業圏なんです。課長、もっとそういうのに目を当てるじゃないけど、動いてくださいよ。

○議長（田中政司君）

市長。

○市長（村上大祐君）

お答えをしたいと思います。

そういった野菜とかイチゴとかは県の統一ブランドで、いちごさんとか、そういった展開をしておりますけれども、施設園芸とかでの、そういった野菜の支援制度というのは、基本的には県から、お茶というのはほかにも作っている地域はありますけれども、嬉野は嬉野市として独自の作物でもございます。

そういったところで、制度、仕組みというものが全く異なるということを念頭に置いて、もう一度その辺を勉強し直して質問いただければと思います。

以上です。

○議長（田中政司君）

農業政策課長。

○農業政策課長（井上 章君）

お答えをいたします。

まず、野菜に対する補助ということでございますけれども、直近の3か年間の補助の実績を申しますと、令和元年度が1,593万8,000円ということで支出をしております。令和2年度につきましては、補助支出はゼロになっております。ただ、令和3年度ですけれども、本年度につきましては7,013万8,000円ということで支出予定をしているところでございます。

なお、平成30年度から議員も御存じかと思えますけれども、塩田町では特に施設ハウス、キュウリの施設を建設しております。もう既に9棟ほど建っておりますけれども、この分につきましては産地計画をつくっての申請になっておるところでございます。その計画を今、杵藤地区のキュウリ部会のほうでつくっていただいておりますので、その事務を武雄市さんが賄っておりますので、その関係上、補助金等は武雄市に全て入っているということになっております。

ただ、市町の負担金がありますので、その負担金も平成30年度につきましては約180万円、令和元年度につきましては600万円、令和2年度につきましては170万円、今年度につきましても250万円程度の予算計上をして負担金として支払っているところでございます。

また、産地交付金の額ということでございますけれども、申請は認定農業者等が申請していただいておりますけれども、県からの額の配分が来ておりませんので、それぞれの品目ごとの額がまだ決定できておりませんので、その分で配布ができていないということでございます。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

いろいろ努力されていらっしゃるのありがたいと思います。

市長がおっしゃったように、もっとさらに精密な分析をして質問をし直せとおっしゃいました。課長は頑張ると。県からの配分がないと言ったら配分ができるように指導する、そういうのが役所の役目じゃないでしょうか。実際に何も困っていないところはないですよ。次に行きますので、もう答弁は要りません。

令和2年度の決算書を調べて本当にびっくりしました。補助金、こんな1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、市独自の補助金がお茶にありますよね、こういうネギ、タマネギとか、こっちはないんですよね。それを精査し直してから質問し直せとおっしゃるのは、私は前進がないと思いました。

課長にお願いします。もっと生産者の方にお話を聞いて動いてください。そしたらこういう、配分がないとか、申請がないとか、そういう状況はないと思います。

農業関係は以上です。

次、道路問題に移らせていただきます。

○議長（田中政司君）

産業振興部長。

○産業振興部長（中村はるみ君）

すみません、先ほどの課長の答弁にちょっと補足させていただきますと、配分がないということではなくて配分がまだ決まっていないということです、そこを御理解いただきたいと思います。よろしく申し上げます。

○議長（田中政司君）

芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

分かりました。なるべく申請ができるように動いていただきたいと思います。

次は道路整備についてお伺いいたします。

市内では住宅地まで緊急車両が通れない幅の道路、幅員が4メートル未満、いわゆる狭隘道路というのがありますけど、そのときの救急車とか消防車、そういうのが入れないと思うんですけど、対応はどのようにしておられるのか、そして、今後どのような政策を、整備をしていかれるのか、それをお伺いいたします。

○議長（田中政司君）

建設課長。

○建設課長（馬場孝宏君）

お答えいたします。

建設課所管の市道の整備についてお答えをいたします。

市道の整備につきましては、緊急性、あるいは各行政区より多くの要望をいただいている中から地域の平準化等も図りながら整備を進めているところでございます。

狭隘道路ということではございますが、確かに市内ところどころで狭い道等はあるわけですが、市道路線沿線に住宅地が密集していたりとか、そういうところは家屋移転補償等が発生します。またあと、用地の関係とか、いろいろな諸問題がございまして、多額の予算等も必要になるということで、なかなか着手ができていない箇所も多くあるというふうなことで考えているところでございます。

整備が十分にできれば一番いいんですが、今ある予算の中で効率的にぜひ幅員が取れた路線を延ばしていきたいなというふうなところで今頑張っているところでございます。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

総務・防災課長。

○総務・防災課長（太田長寿君）

それでは、先ほど申しました道路の状況を踏まえて緊急車両の運用についてお答えをしたいと思っておりますけれども、今、当課の関係で言いますと、消防車両——消防署、それから、消防団の車両ということでございますけれども、こうしたそれぞれの組織する、管理する車両によりまして、緊急車両が通行できない区間につきましては幅員等をそれぞれ把握いたしておきまして、例えば、火災の場合にあらかじめ水利の位置を把握しておきまして、ホース延長を含めて最短で火点に到達するように、消防団で言うと担当のエリアがございますので、そういった水利等の幅員道路の状況を把握するというようなことを日頃から行っておりまして、それを踏まえての訓練という形で実施をすることになります。

なお、さらに本市におきまして、消防車両の整備に関しては、先ほど言った道路ですとか、地形等の状況を含めて必要な装備を配備するというふうなことも併せて行っていると、そういった状況でございます。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

緊急車両が通らない、救急車、あるいは消防車が通らないということは、道路は大体把握していて、水利とか把握して対応できるようにしておっしゃいましたけど、狭隘道路を全市把握していらっしゃるのでしょうか。課長。

○議長（田中政司君）

総務・防災課長。

○総務・防災課長（太田長寿君）

お答えいたします。

消防団の場合、消防署もそうかと思うんですけれども、その道路の状況につきましては、担当においては道路と、それから、水利の状況を把握して、そこが火点からどのくらいの位置があってということから活動しておりますので、トータルでその状況を把握して活動するという形になるかと思っております。

以上です。

○議長（田中政司君）

芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

私が言いたいのは、狭あい道路整備等促進事業というのが国交省にありますので、社会資本整備総合交付金や防災・安全交付金というのがありますので、整備したほうがいいんじゃないかなというふうなのを今月思ったんですよ。というのは、介護車から車椅子の人を2人

で抱えて100メートルぐらい移動させていらっしやいました。それが1つ。

高齢者がいらっしやる方に、救急車は何度か来てもらったけど、入れなくて、やっぱり100メートルぐらいはタンカーで行きましたということだったんです。

それともう一つは、以前、お寺が焼けたんですよ。もう今まで見たことのないような火災だったと消防士の方は言っています。お寺も全て緊急車両が入れるような、幅員が4メートルあるようなところばかりではないので、そういうところはやっぱり国交省の事業で狭あい道路整備等促進事業というのがありますので、ちゃんと整備していただければ、そして、なるべくそういうところは早く拡幅事業とか入れていただければ、それと、優先順位をつけて整備していただければ、そこに住んである方も安心して暮らせるんじゃないかと思うんですけど、次、救急車が来たらどうしようとかか、いろいろ考えていらっしやるので、狭あい道路整備等促進事業というので整備していただければと思うんですけど。

○議長（田中政司君）

建設課長。

○建設課長（馬場孝宏君）

お答えいたします。

国庫補助があるということですので、ただ、様々な条件等いろいろあると思いますので、こちらのほうももう少し勉強させていただいて、該当する路線等があれば、そちらにのせてちょっと協議をしてみたいというふうに思います。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

緊急に対応しなければならぬ路線とかありますので、ぜひこの整備事業というのを考えていただきたいと思います。

それでは最後に、8月豪雨災害の復旧状況をお伺いいたします。

3路線をお願いしていたんですけど、県道大木庭武雄線と市道万才堤ノ上線、市道北下久間塩吹線が今まだ開通ができていないんです。それと、県道大木庭武雄線というのは県道なんですけど、本当にこれの利用率というのは、市外から、武雄とか鹿島からももちろん通られますけど、近くの人の生活道路でありますので、どのような復旧状況でしょうか。それを、3路線についてお伺いいたします。

○議長（田中政司君）

建設課長。

○建設課長（馬場孝宏君）

お答えいたします。

まず、県道大木庭武雄線についてございますが、県にお尋ねをしたところでございます。現在、観測結果を踏まえて関係機関と復旧工法の事前協議を行っており、今年度の災害査定に向け作業が進められているということです。

なお、今現在、全面通行止めでございますので、そちらの解除を行うべく、今月から仮設防護柵と信号機による片側交互通行に向け工事に着手する予定ということでお伺いしていましたが、先日私のほうも現地を見てまいりましたが、もう既に工事に着手されておりました。

そういうことで、できるだけ早い時期に信号機つきの片側通行にしていきたいということでお話はお伺いしたところでございます。

続きまして、市道万才堤ノ上線につきましては、議員も御存じのとおり、同路線内での大規模崩落が数か所発生しております。11月末に国の査定を終えております。

今後、ほかの路線の復旧事業と調整を行いながら早期復旧に取り組んでまいりたいというふうに考えております。

あと最後に、北下久間塩吹線でございますが、こちらはちょうど幅員が広いところで少し地滑りが起きておりますが、小規模でありますけど、地滑りの様相を呈している状況でございます。

こちらにつきましては、経過観察を行いながら今後の対策を検討していきたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

8月の豪雨災害で本当に数多く、250か所だったですかね、崩落地があるということで大変な状況の中に復旧工事をお願いしているところなんですけど、県道大木庭武雄線は片側通行が今月からできるということで、とにかく通られさえすればという住民の方の要望です。

そしてもう一つは、市道北下久間塩吹線は、査定はまだできていないんでしょうか、これの予定とかはわかりますか。

○議長（田中政司君）

建設課長。

○建設課長（馬場孝宏君）

お答えいたします。

これは一昨年も災害といいますか、少しずれたような形でブロック積みが動いたものから、そちらについては災害という形では出せなかったということで、市の単独で前面に擁壁をして抑えをしたところがございます。

今後こちらのほうは実際もう過年災というようなことで、ちょっともう災害復旧工事には出せない箇所がございますので、社会資本整備総合交付金とか、そういうのをちょっと使って整備ができないかということで、今いろいろと検討しているところでございます。

以上でございます。

○議長（田中政司君）

芦塚典子議員。

○14番（芦塚典子君）

説明ありがとうございます。8月の豪雨災害では本当に多くの箇所が災害をしております。その中でやっぱり地元の人にはもう生活道路だからというふうに急がれますけど、やはりいろんな交付金とか使って早期に復旧できるようにお願いいたします。

以上で私の一般質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（田中政司君）

これで芦塚典子議員の一般質問を終わります。

以上で本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれで散会いたします。

午後2時27分 散会